

2026年8月28日(金)
愛知県私大教務研究会 2026年度実務者研修会
生成AI・大学DXの“実務運用フェーズ”
-多様化する学生支援を無理なく運用する仕組みづくり-

変革の火を灯し、舵を取り、風を捉える。

人材 × データ × 生成AIで実現する 持続可能な学園DX推進の仕組みづくり

学校法人日本女子大学
管理部システム課 課長補佐
本間 隼人

学校法人日本女子大学
管理部 システム課 課長補佐

本間 隼人



日本女子大学
DX事例



LinkedIn



Work

学園全体(附属校含む)のDX推進を牽引

- データ・AI活用: 学園IRデータ分析基盤、学園専用生成AI対話プラットフォームの開発
- システム刷新: 勤怠・図書館・学園基幹システムのクラウド化および新規導入・リプレイス
- 組織・文化改革: DX人材育成施策の立案・運営、教員の働き方改革におけるDX主導 etc...



Research & Communication

教育現場におけるDX実践知の理論化・知見共有

- 2025年度登壇: 13回(招待講演等)
- 日本女子大学 システム課のDX事例公開サイトにて外部公開済み情報の共有



Dev & Hobbies

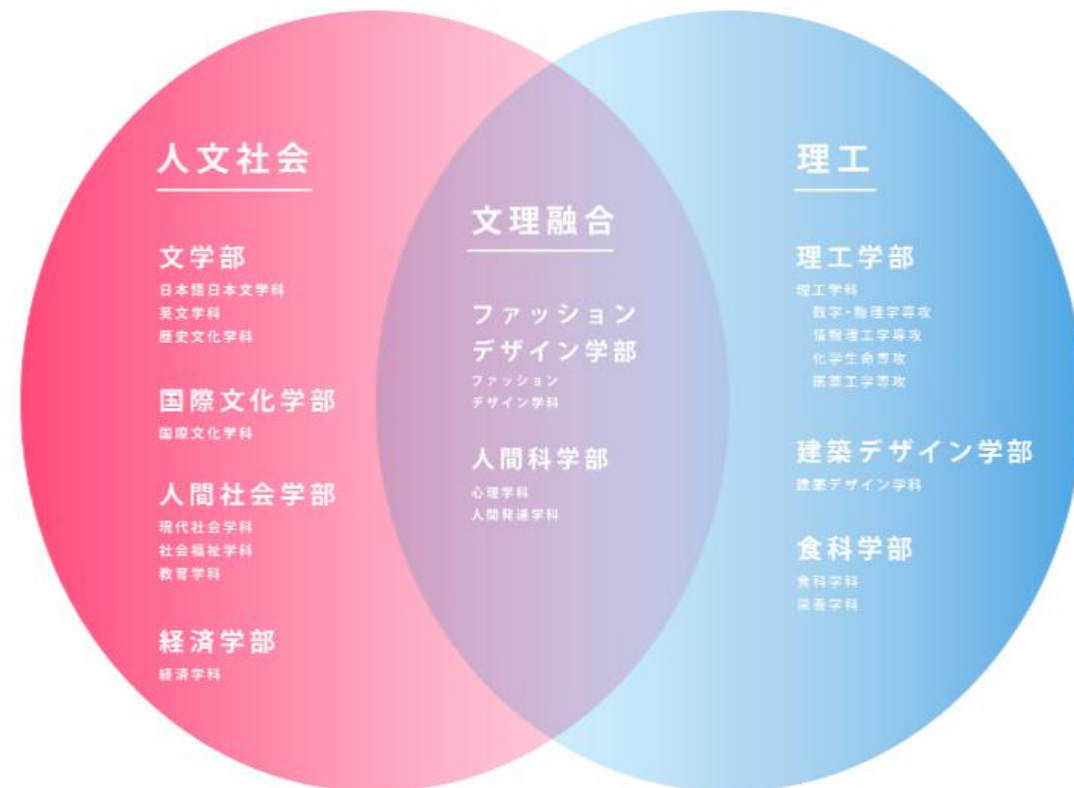
モダンな技術スタック/生成AIを利用したサービス開発

- GitHub / Node.js / Vercel / Supabase / Cloudflare / Amazon Bedrock etc...



名古屋で食べたいグルメ

- 東京都文京区目白台にキャンパスを置く、女子の総合大学
- 国際文化学部（2023年度）、建築デザイン学部（2024年度）、食科学部（2025年度）を開設
- さらに、経済学部（2027年度）、ファッションデザイン学部・人間科学部（2028年度）、理工学部（2029年度）の学部学科再編を計画中であり、まさに改革を進めている大学



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2029年4月からの学部学科構想図



生成AI

人材

データ

学園DX



生成AI

人材

データ

学園DX

Ⅰ. 変革の火を灯す「人材」

1.DX人材育成の背景

2.DX人材育成の計画

①スキル整理

②育成方針

3.DX人材育成の実行

①ICTレベル把握

②DXコア人材推薦

③外部研修

④実践型問題解決研修

4.DX人材育成の効果

5.DX人材育成の継続性確保

- 本来あるべきDX推進には、人材へのアプローチが必要不可欠という課題に直面した
- DX推進の要素として人材育成の取組方針を定めた

DX効果

ニーズを把握している
現場が牽引した改革こそ
有効なDX推進

DX速度

システム課のみでは
年間の対応件数に限界
現場の協力が不可欠

DX規模

大規模な変革には、
現場間の連携が必須

人材へのアプローチ

DXコア人材 = 現場でDX推進の核となる人材

法人企画部

学園企画課

広報課

教学企画部

教学企画課

大学再編準備室

総務部

総務課

人事課

財務部

経理課

検収室

管理部

施設課

システム課

入学部

入試課

学務部

研究支援課

学修支援課

...

学生生活部

学生支援課

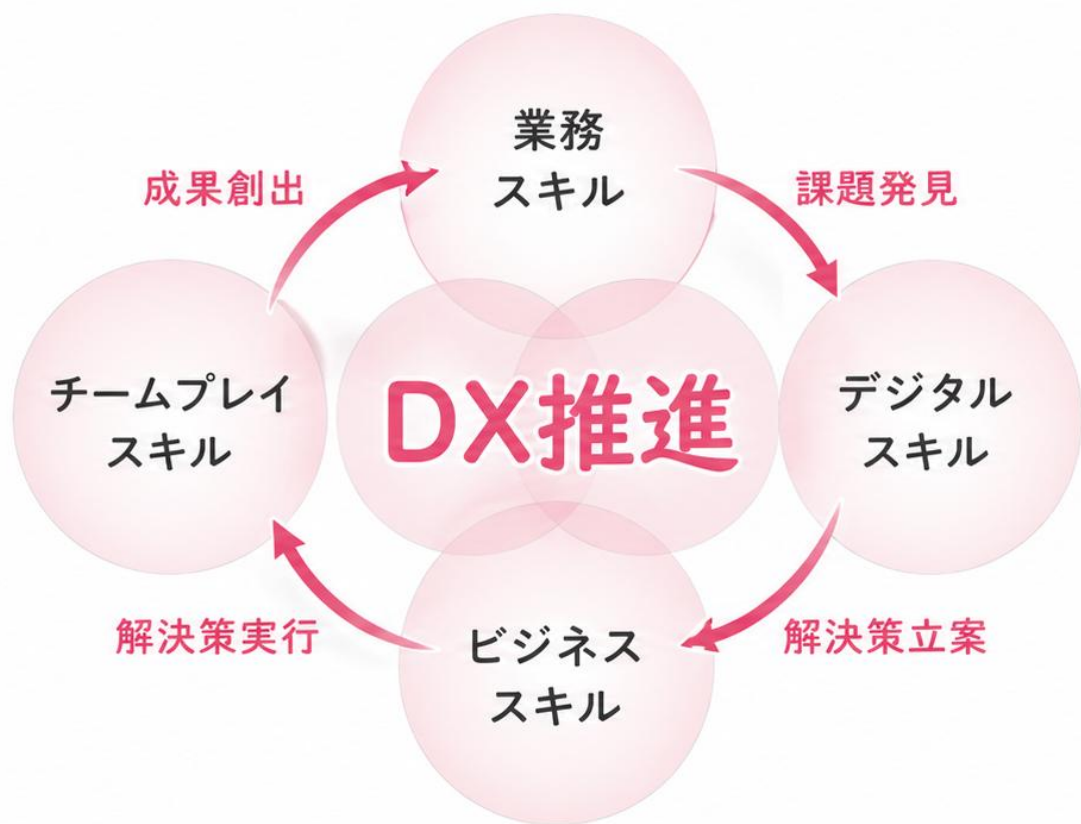
ダイバーシティ推進室

キャリア支援課

国際交流課

2.DX人材育成の計画:①スキル整理

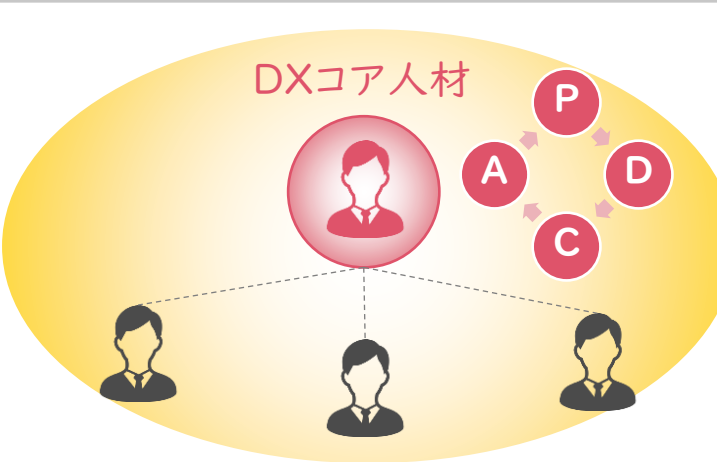
- 経済産業省/情報処理推進機構 (IPA) のデジタルスキル標準を活用し、**本学の大学職員のDXコア人材**として、DX推進には「①業務スキル」「②デジタルスキル」「③ビジネススキル」「④チームプレイスキル」をバランスよく高めていくことが必要と再定義



スキル	概要
① 業務スキル	本学の業務運営に必要なスキル (課題発見に関連するスキル)
② デジタルスキル	ITに関する興味関心や知識 (解決策立案に関連するスキル)
③ ビジネススキル	論理的思考、 プレゼンテーション(説明能力/説得力)能力 (解決策実行に関連するスキル)
④ チームプレイスキル	利害関係の異なる組織間の折衝や 成果創出に至る計画・分担等のマネジメント力 (成果創出に関連するスキル)

2.DX人材育成の計画:②育成方針

- 下記、STEPで人材育成を進める。
 - STEP1:デジタルスキルのレベル把握を実施し、DXコア人材を推薦
 - STEP2:DXコア人材はビジネススキルの研修(問題解決研修)を受講
 - STEP3:実業務の問題に対し問題解決を実践し、1年間の取り組みで成果を創出

STEP①:レベル把握	STEP②:階層別研修	STEP③・④:実践研修
		
2023年度10月	2024年度6月	2024年度5月～
業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)
デジタルスキル	デジタルスキル	デジタルスキル
ビジネススキル	ビジネススキル	ビジネススキル
チームプレイスキル	チームプレイスキル	チームプレイスキル

3.DX人材育成の実行:①ICTレベル把握

- DX・ITや改革の親和性の現状把握のため、**IT・DXリテラシー診断※を全専任職員が受講**
【組織結果】本学は、他企業との相対比較の結果、DXに対するポテンシャルがあると判明
【個人結果】DXコア人材の推薦時の情報として活用

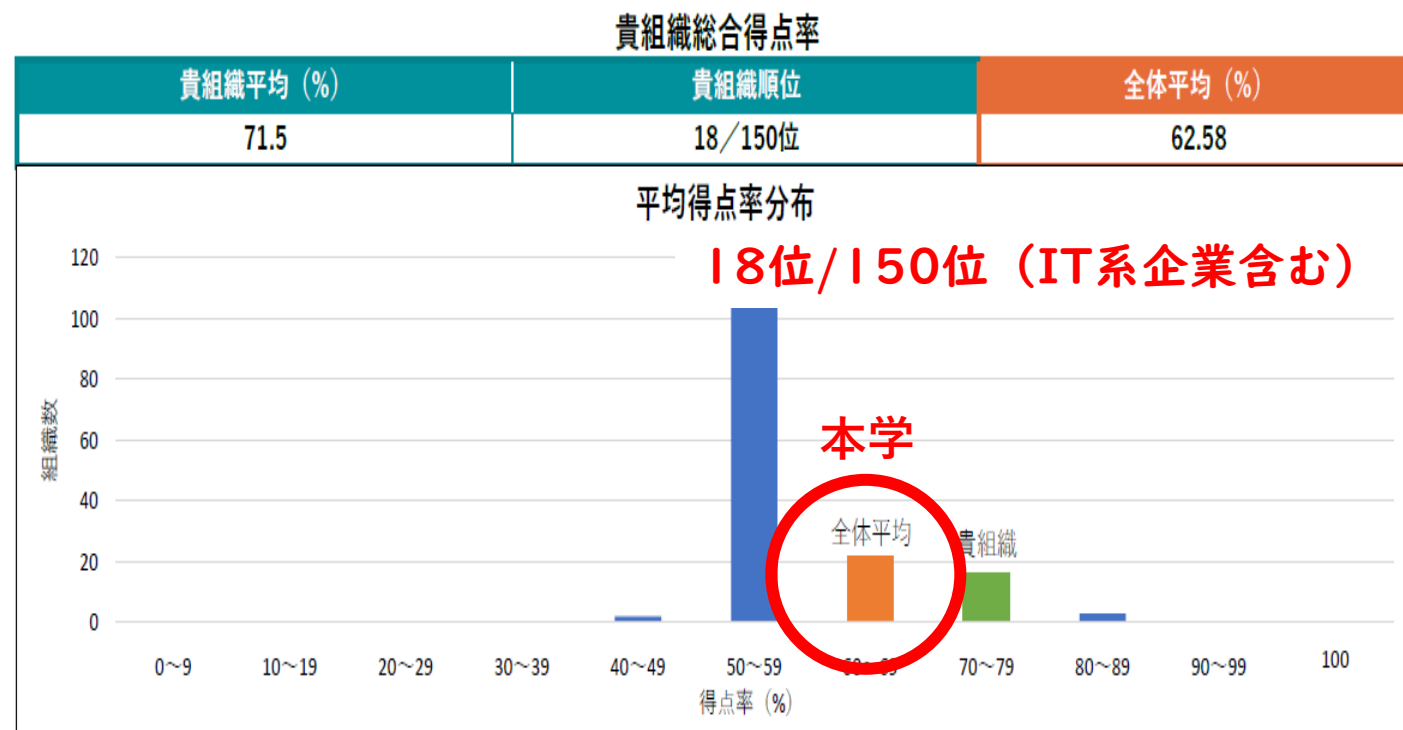
01 IT リテラシー IT リテラシーテスト / IT アセスメント

デジタル化やDX推進に必要なIT関連の理解や活用について出題されます。



02 DX リテラシー DX テスト / DX アセスメント

DXリテラシー標準※1を基準とし、DX推進に欠かせない知識の理解や活用について出題されます。



3.DX人材育成の実行:②DXコア人材推薦

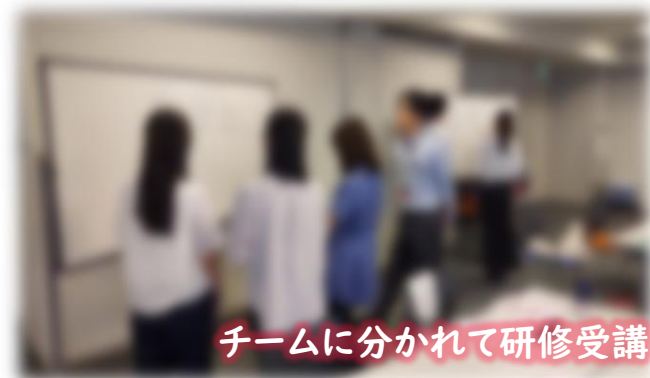
- 各部から1名程度、**部長推薦**によりの**DXコア人材を選抜**
- 計16名(職員の約10%)がDXコア人材としてプロジェクトに参画

部	課	イニシャル
法人企画部	広報課	KTさん
教学企画部	教学企画課	SSさん
総務部	総務課	MKさん
財務部	経理課	KTさん
管理部	システム課	MYさん
入学部	入試課	MHさん
学務部	学修支援課	OMさん
	研究支援課	CMさん
学生生活部	学生支援課	KNさん
	国際交流課	CIさん
	キャリア支援課	SKさん
	ダイバーシティ推進室	TYさん
通信教育・生涯学習事務部	通信教育課	KMさん
図書館事務部	図書館課	NKさん
		NKさん
	成瀬記念館事務室	KKさん



3.DX人材育成の実行:③外部研修

- DXコア人材は、問題解決フレームワークに関する外部研修を受講
- 将来的な改革プロジェクトを進めるうえでの共通理解としても重要と考える



問題の設定

「解決すべき問題は何か？」を検討する段階

問題点の特定

「どこに問題が集中しているか？」の観点で問題点を絞り込む段階

原因の究明

特定した問題点を引き起こす「真因（真の原因）」を究明する段階

解決策の立案

真因を解消する打ち手を洗い出し、絞りこみをする段階



3.DX人材育成の実行：④実践型問題解決研修

- DXコア人材は、研修受講後、**業務上**で課題を見つけ、**問題解決**に取り組む
- **実践的な問題解決能力**を醸成を狙うとともに、**各種の報告会を設定し、論理的な説明能力**および**成果創出のためのモチベーションを保つ工夫**
- 報告会に管理職も参加することで、**学園の風土を変革**に寄与することを想定

年度	月	内容
2024年度 ・ 2025年度	5	問題解決研修受講
	6	実践研修
	7	テーマ報告会
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	中間報告会
	1	
	2	
	3	
	4	
翌年度	5	成果報告会



※2025年度継続中、2026年度継続予定

4.DX人材育成の効果

- 本学のDXコア人材育成のスキームでは、次の3つのメリットを同時に享受できる
 人材の改革：問題解決能力の開発による人材の改革
 実務の改革：実践側問題解決研修により実務の改革施策が創出
 組織の改革：各種報告会にて取組を管理職を含めた全職員への共有による組織変革

人材の改革



DXコア人材
育成人数

16名

全職員の10%
(約160名)

実務の改革



DXコア人材
業務改革件数

累計**21**件

各部署で業務改革の
自律的な実行

組織の改革



学内
報告回数

累計**63**回

全職員を参加対象とした
報告会を継続



事例
外部公開件数

累計**30**件

2025年度
2023年度比 5倍

4.DX人材育成の効果

DXコア人材の取り組み一例

広報課

ブランディング・広報活動の強化

理事長による方針説明
インナーブランディング施策の推進

総務課

規程運用にかかわる業務効率化

規定のデジタル化
ワークフローのオンライン化

経理課

学費納入にかかわる問合せの削減

専用サイト導入検討
案内メール改善による問合せ削減

システム課

柔軟なコンピュータ演習室の展開

PC配置最適化
BYOD/VDI導入検討

入試課

入試出願に関する問合せの削減

動画・Webサイト案内強化
フォーム改善による対応効率化

研究支援課

研究費執行の不備削減

Amazonビジネス導入による
物品購入フロー改善・不備削減

学生支援課

学内奨学金の見直し

データ分析に基づく制度見直し
情報発信の強化

国際交流課

交換留学生の出願手続き効率化

FormsとPowerAutomateを
活用した出願プロセスの自動化

通信教育課

教職業務の活性化

マニュアル整備
AIチャットボット検証による業務サポート

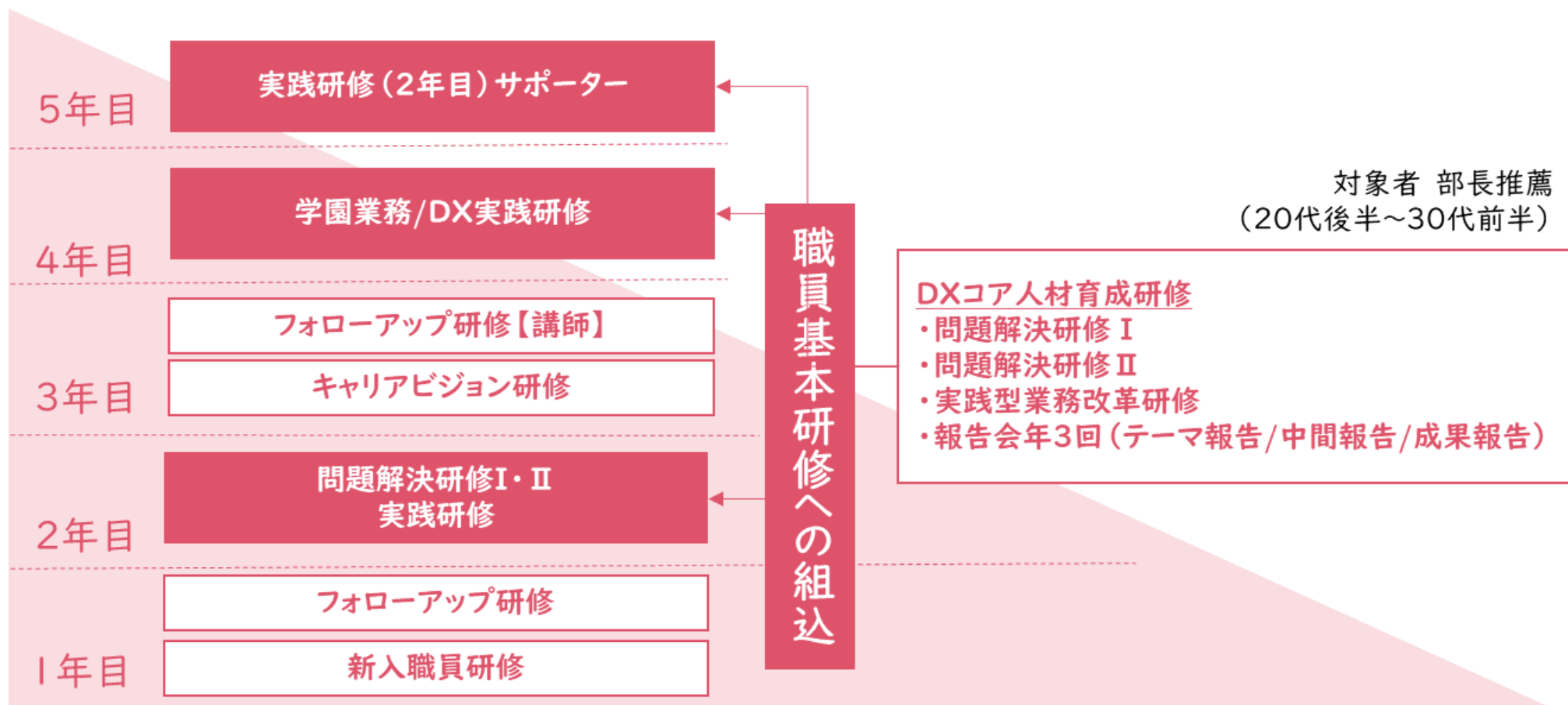
図書館課

図書延滞率の抑制

Web貸出更新の周知強化
通知メール改善による延滞抑制

5.DX人材育成の継続性確保

- DXコア人材育成研修を職員基本研修に組み込み、職員の基礎能力として継続性確保
- さらに、受講者が次年度にサポーターとして関わることで、自身の新たな能力開発と次世代育成を継承を実現





生成AI

人材

データ

学園DX

2. 変革の舵を取る「データ」

1. 学園データ分析基盤

1-1. 学園データ分析基盤の方針

1-2. 学園データ分析基盤で解決したい課題

1-3. 学園データ分析基盤の構造

[補足] Microsoft Fabricとは？

[補足] Microsoft Fabric選定理由

1-4. 学園データ分析基盤の特徴

[デモ] 学園データ分析基盤と生涯IDによるレポート

2. 学園データ分析基盤の活用事例

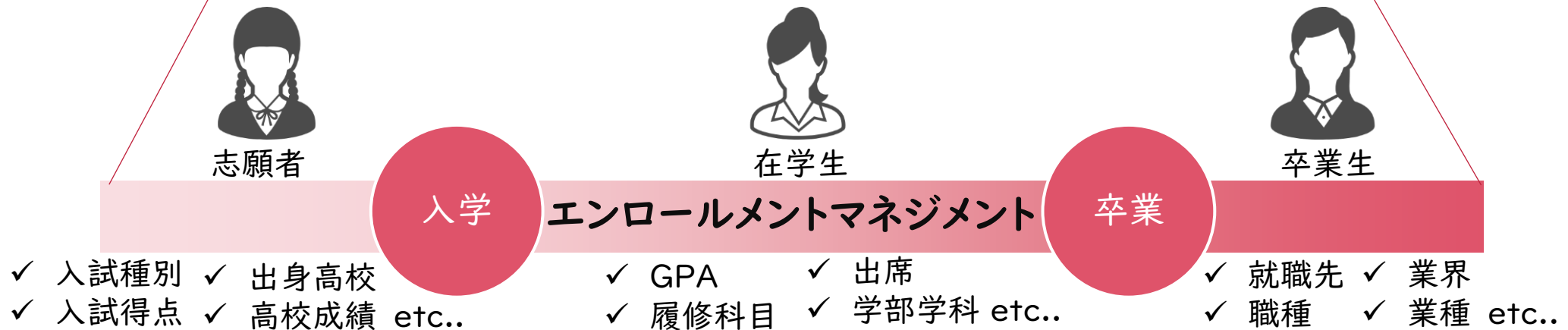
[デモ] 学園データ分析基盤と生成AIによる分析

1-1. 学園データ分析基盤の方針

- 日本女子大学を含む本学園は、幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・大学院までの一貫教育体制を擁する。
- 本学園の目指す学園データ分析基盤は、附属校園を含む全教育段階のデータを一貫管理・分析を可能とする「フル・エンロールメントマネジメント」である。



フル・エンロールメントマネジメント



1-2. 学園データ分析基盤で解決したい課題

- 目指す学園データ分析基盤の実現のために次の3つの課題を整理した。

課題①: 統合データ分析基盤へのデータ連携による円滑なデータ共有

課題②: 生涯IDによる学生識別の一貫性確保

課題③: 自立分散的なデータ駆動組織の強化

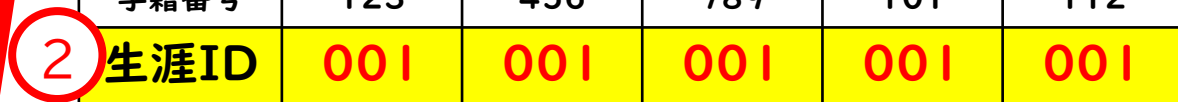
基幹システム 大学システム 中学・高校システム 小学校システム



基幹システム 大学システム 中学・高校システム 小学校システム



	幼稚園	小学校	中学校	高校	大学
氏名	日本花子	日本花子	日本花子	日本花子	日本花子
学籍番号	123	456	789	101	112
生涯ID	001	001	001	001	001



[補足] Microsoft Fabricとは？

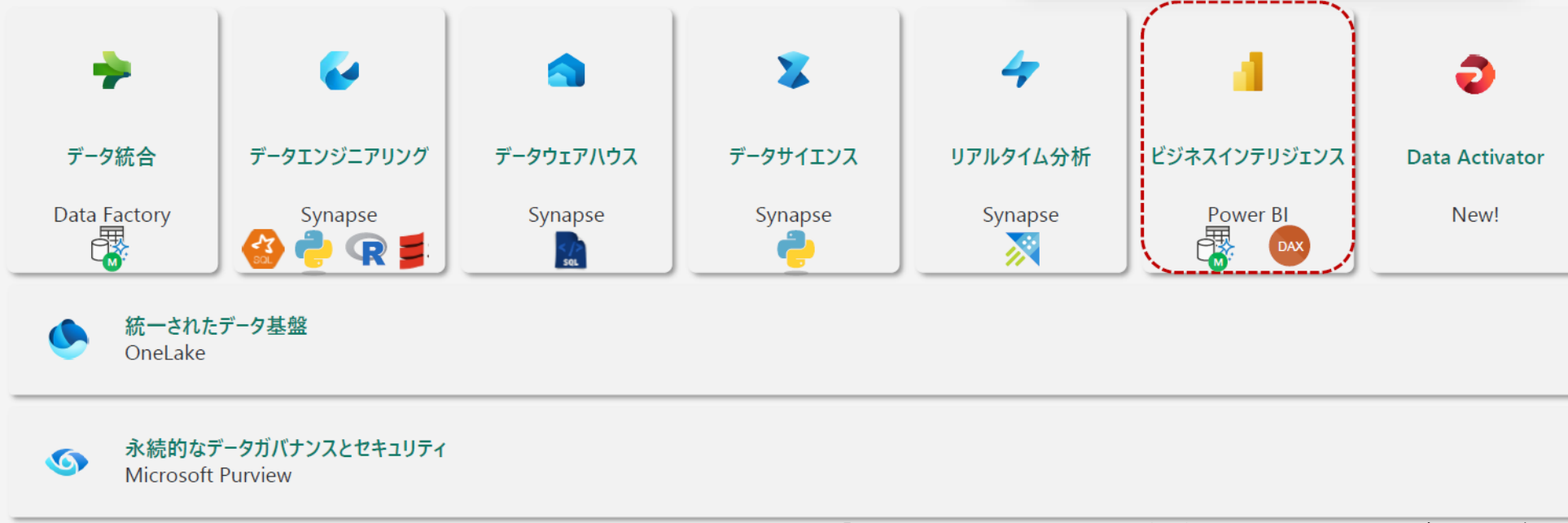
データ分析に必要な機能が網羅された

SaaS型 All In One データ基盤ソリューション

Microsoft Fabricの正式説明

- ・ All In One データ基盤ソリューション
- ・ OneLakeにあるDelta Parquet形式のデータをアナリティクス・ワークロード全てが参照
- ・ SaaSベースの統合ソリューション
- ・ SaaSのメリットは**すぐに始められること**

Power BIを成功事例としたもの



日本マイクロソフト「Microsoft Fabric 最先端のEnd-to-Endデータ基盤」資料より抜粋

理由① 構築コストの低さ

- ✓ SaaS (Software as a Service) として提供、従来のインフラの構築が不要
- ✓ 本学での内製開発および運用管理が可能となり構築コストはゼロ

理由② 運用コストの明確さ

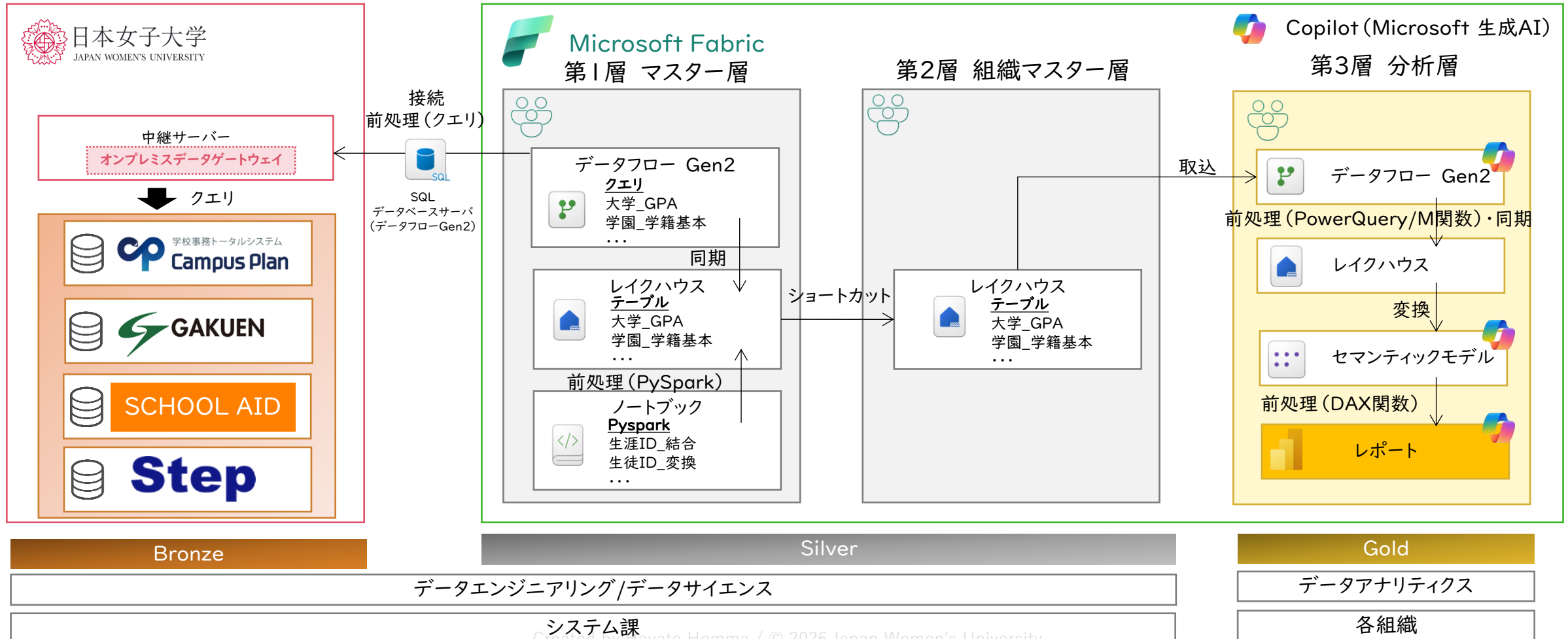
- ✓ Microsoft Fabric 容量 (SKU)、ストレージ容量、データ転送量に基づくシンプルな料金体系
- ✓ コストの大部分は Microsoft Fabric 容量 (SKU) に起因、予約容量は定額となるため予算化しやすい (ストレージ容量とデータ転送量は少額で、全体への影響は限定的)

理由③ 組込生成AIの分析支援

- ✓ Copilot in Fabric が標準搭載
- ✓ レポート作成の支援やデータの前処理の関数 (M関数/DAX関数) を支援

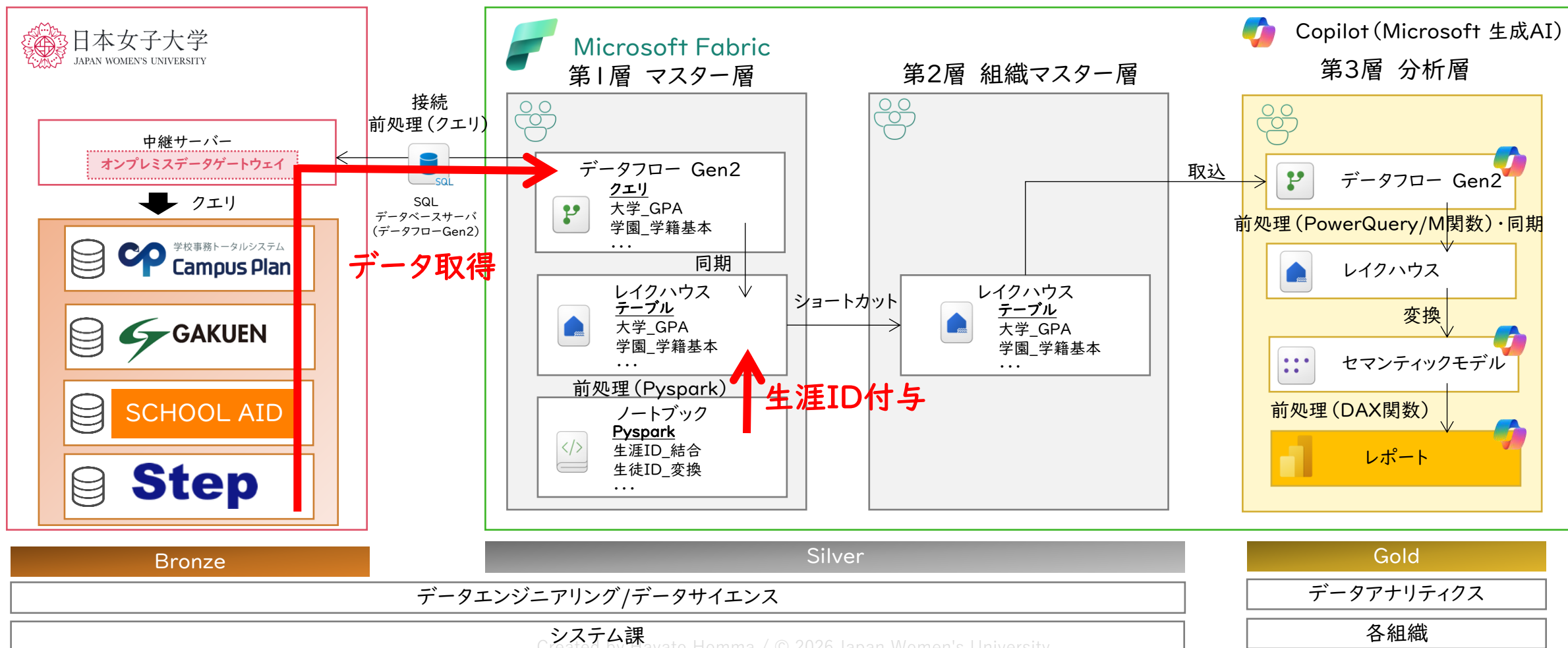
1-3. 学園データ分析基盤の構造

- 学園データ分析基盤（以下、JWU-IR）のMicrosoft Fabricの環境は権限・運用プロセスから**3階層構造**を採用。
 - 第1層 マスター層 : SQLを発行し、各システムのデータを保持
 - 第2層 組織マスター層 : 各組織で分析に必要なデータをマスター層から同期
 - 第3層 分析層 : データ分析者が分析を行う領域



I-4. 学園データ分析基盤の特徴①

- Microsoft Fabricに学園の各種システムのデータが自動的に連携及び更新し、生涯IDを自動付与



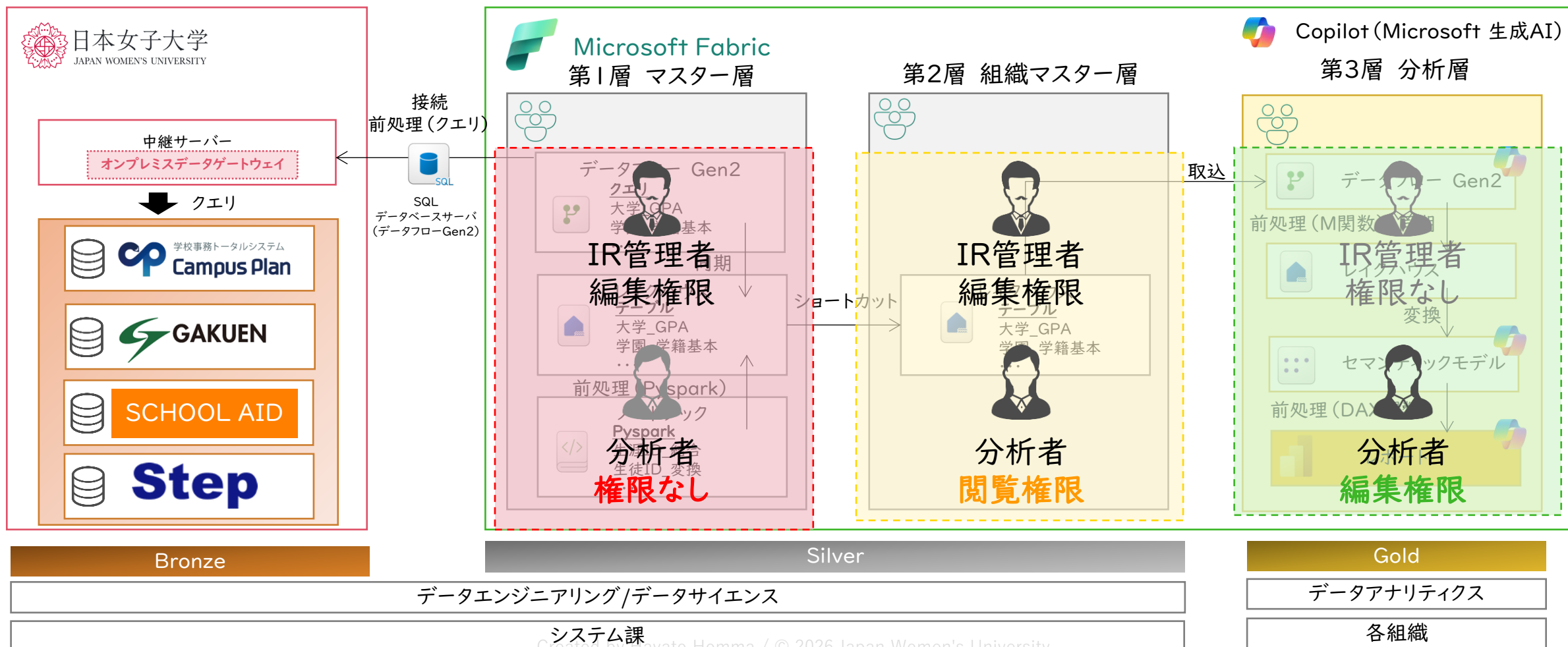
1-4. 学園データ分析基盤の特徴②

- セキュリティ及び権限管理を3層構造に対して実施、安全かつ円滑にデータ共有

第1層 マスター層 : IR管理者アカウントのみが編集・閲覧可能

第2層 組織マスター層 : 各組織毎に必要なデータのみ同期、閲覧権限のみ付与

第3層 分析層 : 自由に分析レポートを作成可能



[デモ] 学園データ分析基盤と生涯IDによるレポート

- 高校の入学時の入試形態と大学でのGPAの傾向分析を一例として取り上げる。
- 「高校システム」から「高校入試形態テーブル」を「大学システム」から「大学GPA」を取得し、「生涯ID」で各テーブル間を紐づけを実施し、分析が可能となる。



第2層 組織マスター層

高校システム ➡ 高校入試形態テーブル

生涯ID	学籍番号(高校)	高校入試形態
11111111	31700001	一般
22222222	31700002	内部
33333333	31700003	推薦
...	...	...

大学システム ➡ 大学GPAテーブル

生涯ID	学籍番号(大学)	GPA
11111111	22001001	2.8
22222222	22001002	3.0
33333333	22001003	3.2
...	...	...

Silver



第3層 分析層

大学GPA+高校入試形態テーブル

生涯ID	学籍番号(大学)	学籍番号(高校)	高校入試形態	GPA
11111111	22001001	31700001	一般	2.8
22222222	22001002	31700002	内部	3.0
33333333	22001003	31700003	推薦	3.2
...	...	...	...	...

Gold

[デモ] 学園データ分析基盤と生涯IDによるレポート



高校入学時の入試形態と大学での学生のGPAの分布を表すグラフです。

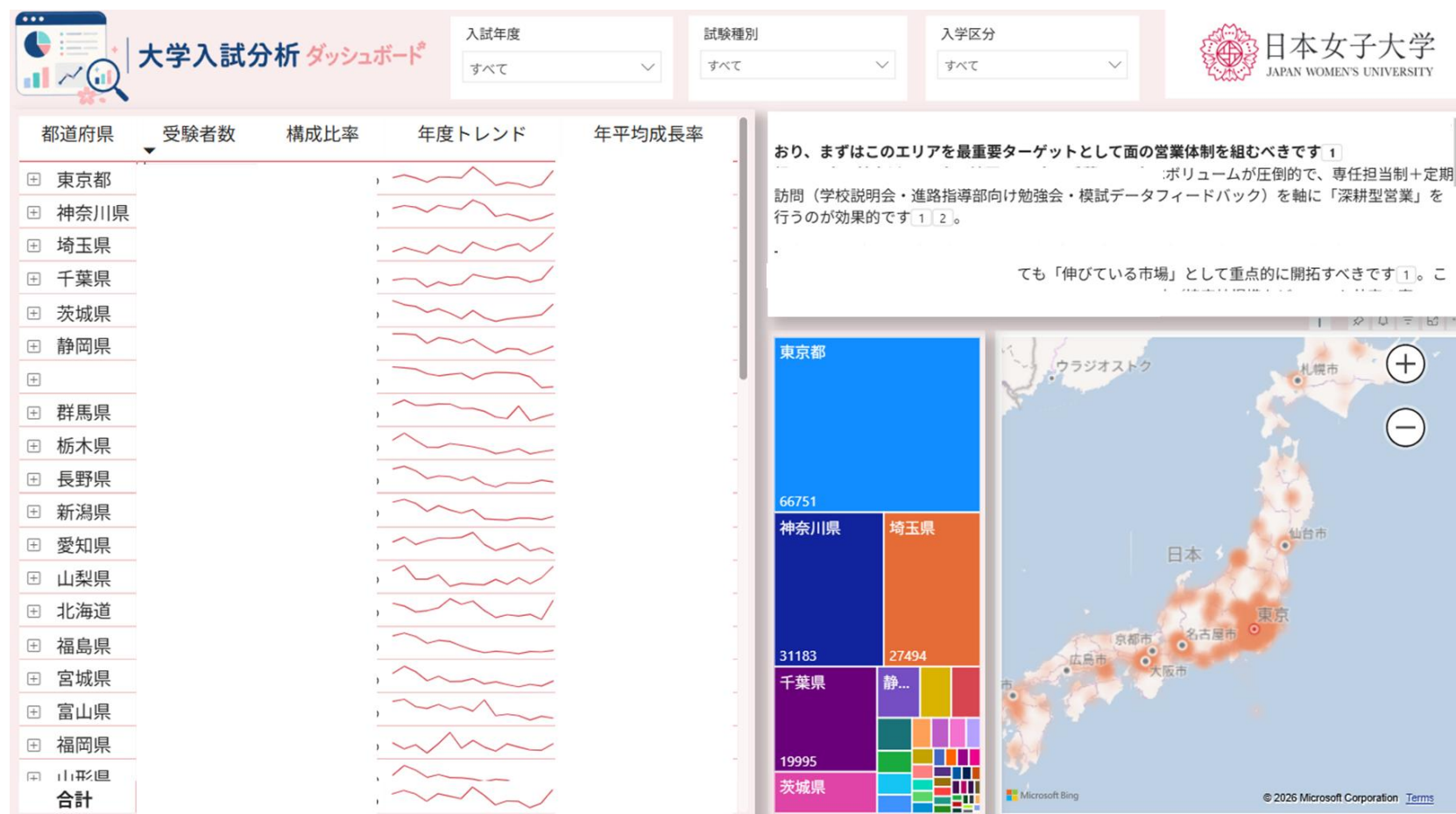
[デモ] 学園データ分析基盤と生涯IDによるレポート



高校入学時の入試形態と大学での学生のGPAの分布を表すグラフです。

2. 学園データ分析基盤の活用事例

- クラウドサービスとも連携追加、戦略立案、KPI管理、議論のバックデータまで幅広く活用
- Teamsでのレポート共有により、メンバーがプロジェクトの最新状況をリアルタイムに確認



2.学園データ分析基盤の活用事例



大学入試分析 ダッシュボード

入試年度
すべて

試験種別
すべて

入学区分
すべて

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

都道府県	受験者数	構成比率	年度トレンド	年平均成長率
東京都				
神奈川県				
埼玉県				
千葉県				
茨城県				
静岡県				
群馬県				
栃木県				
長野県				
新潟県				
愛知県				
山梨県				
北海道				
福島県				
宮城県				
富山県				
福岡県				
山形県				
合計				

おり、まずはこのエリアを最重要ターゲットとして面の営業体制を組むべきです¹

ボリュームが圧倒的で、専任担当制＋定期訪問（学校説明会・進路指導部向け勉強会・模試データフィードバック）を軸に「深耕型営業」を行うのが効果的です^{1 2}。

でも「伸びている市場」として重点的に開拓すべきです¹。こ

東京都

66751

神奈川県

31183

埼玉県

27494

千葉県

19995

茨城県

静岡...

2.学園データ分析基盤の活用事例



大学入試分析 ダッシュボード

入試年度
すべて

試験種別
すべて

入学区分
すべて

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

都道府県

受験者数

構成比率

年度トレンド

年平均成長率

東京都

神奈川県

埼玉県

千葉県

茨城県

静岡県

群馬県

栃木県

長野県

新潟県

愛知県

山梨県

北海道

福島県

宮城県

富山県

福岡県

山形県

合計

年度トレンド

年平均成長率

おり、まずはこのエリアを最重要ターゲットとして面の営業体制を組むべきです1

ボリュームが圧倒的で、専任担当制＋定期訪問（学校説明会・進路指導部向け勉強会・模試データフィードバック）を軸に「深耕型営業」を行うのが効果的です1 2。

でも「伸びている市場」として重点的に開拓すべきです1。こ

東京都

ウラジオストク

札幌市

Copilot (生成AI) がレポートを要約

おり、まずはこのエリアを最重要ターゲットとして面の営業体制を組むべきです1

ボリュームが圧倒的で、専任担当制＋定期訪問（学校説明会・進路指導部向け勉強会・模試データフィードバック）を軸に「深耕型営業」を行うのが効果的です1 2。

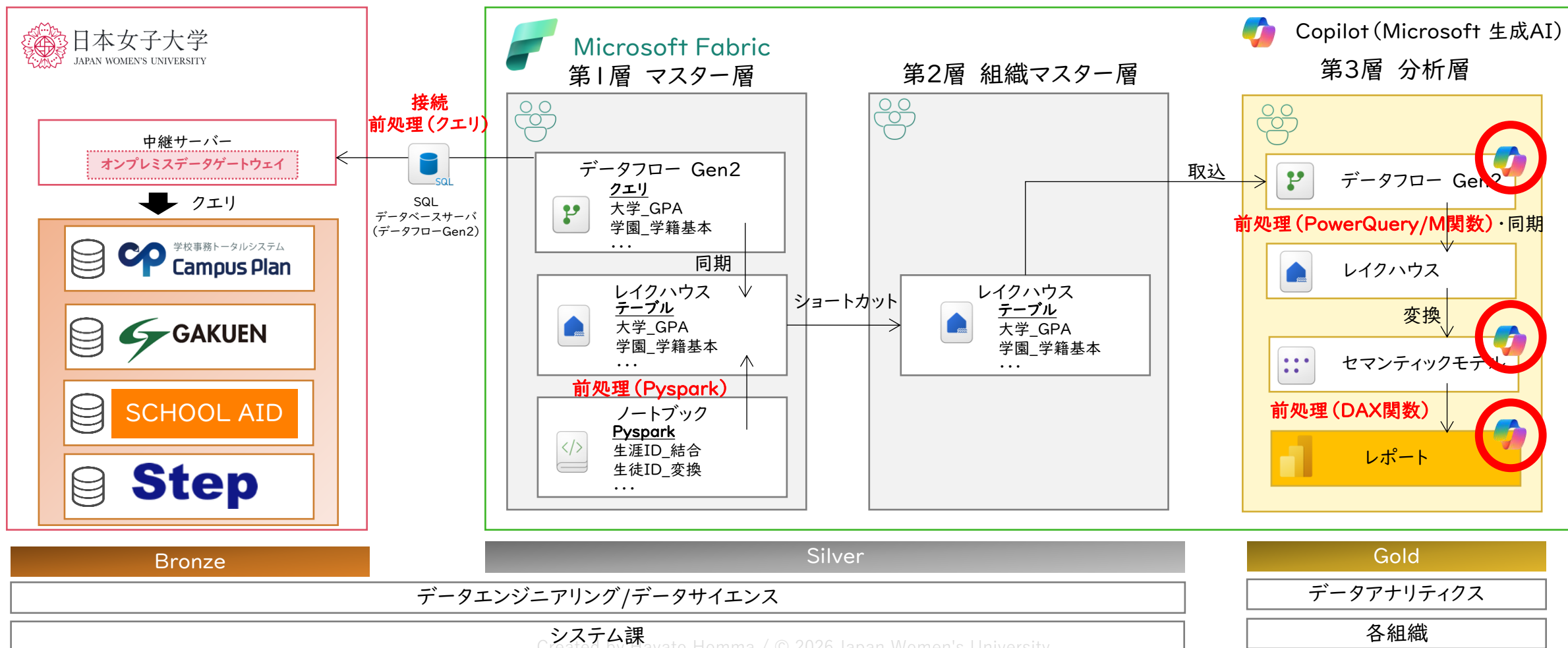
でも「伸びている市場」として重点的に開拓すべきです1。こ

Created by Hayato Homma / © 2026 Japan Women's University

31

[デモ] 学園データ分析基盤と生成AIによる分析

- Microsoft Fabricに組み込まれたCopilotにより次のデータ分析機能を支援する
 - ①データフロー : データ分析に必要な前処理 (Power Query/M関数) 代行
 - ②セマンティックモデル : 計算値 (メジャー/DAX関数) の作成代行
 - ③レポート : レポートの洞察支援



[デモ] 学園データ分析基盤と生成AIによる分析

Fabric | jwu0365-my.sharepoint.com/p... | app.fabric.microsoft.com/workloads/dataflows/author/capacityObjectId/1FCA6F42-4FDD-41E4-B1D8-67472AB3DD37/datafl...

Power Query | データフローが保存されました | 検索 (Alt + Q)

ホーム | 変換 | 列を追加します | 表示 | ヘルプ

データを取得 | 最近のソース | データの入力 | 接続の管理 | 既定のデータ変換先 | オプション | パラメーターの管理 | クエリ | 列の管理 | 行の削減 | 変換 | 結合 | Copilot | テンプレートのエクスポート

新しいクエリ | データソース | データ同期先 | オプション | パラメーター | 並べ替え | インサイト | 共有

クエリ [6] | Table.ExpandTableColumn("#マージされたクエリ数 2",

生涯ID	学籍番号	1.2 GPA	入学学校種別	番号_入学学校	入学年月日
1	002	1.003	1.621 大学	0 5_大学	20120401
2	003	055	2.462 大学	0 5_大学	20120401
3	003	701	2.511 大学	0 5_大学	20160401
4	003	009	2.5 大学	0 5_大学	20120401
5	006	012	2.132 大学	0 5_大学	20120401
6	012	013	1.268 大学	0 5_大学	20120401
7	013	068	1.714 大学	0 5_大学	20120401
8	017	064	2.326 大学	0 5_大学	20120401
9	020	061	0.3 大学	0 5_大学	20120401
10	024	021	1.224 大学	0 5_大学	20120401
11	025	081	2.963 大学	0 5_大学	20120401
12	028	023	2.366 大学	0 5_大学	20120401
13	028	015	1.149 大学	0 5_大学	20120401
14					

列: 6 行: 99+ | 既定の宛先: lakehouse

クエリの設定 | プロパティ | 名前: report_table | 適用されたステップ | マージ... | gakuen... | マージ... | henkan... | マージ... | gakuen... | データ同期先 | レイクハウス

Copilot | からデータを取得する... | 次の手順を追加します... | このクエリについて説明する | 入学年月日の列から入学年度の列を作成して | AIによって生成されたコンテンツに誤りがある可能性があります。使用する前に、正確で適切であることを確認してください。利用規約の確認

公開

[デモ] 学園データ分析基盤と生成AIによる分析

アクティビティ

チャット

チーム

課題

カレンダー

通話

OneDrive

...

アプリ

1

チャット

未読 チャット 会議チャット

Copilot

お気に入り

チャット

データエージェント 9:57
大学に内部進学した学生（附属...

データエージェント

データエージェント AI により生成 9:57

大学に内部進学した学生（附属校推薦）の年度別内訳は以下の通りです。

年度別 内部進学者数

入学年度	人数
2016	234
2017	219
2018	233
2019	228
2020	228
2021	228
2022	230
2023	(未登録)

✓

2016～2022年 合計：1,600名
(2023年度データ追加で総計は増加予定)

👍 🗨

メッセージを入力

🔗 😊 ✎ 📎 + ➤

9:57

年度別の内訳をまとめてください。 🗨



生成AI

人材

データ

学園DX

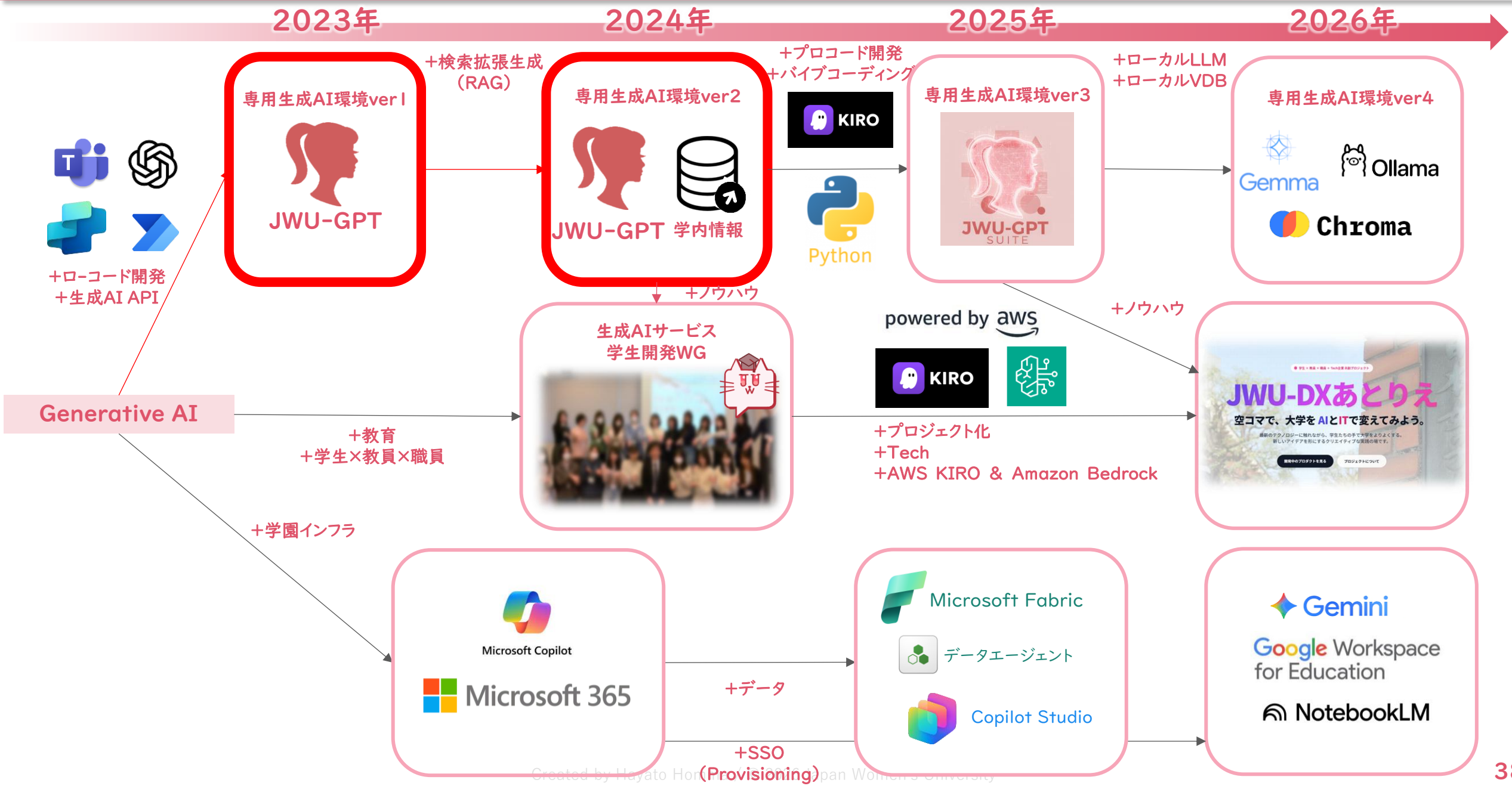
3.変革の風を捉える「生成AI」

1. 日本女子大学の生成AI取組変遷
2. 学園専用生成AI環境 (JWU-GPT)
 - 2-1. 学園専用生成AI環境の検討背景
 - 2-2. 学園専用生成AI環境の概要
 - 2-3. 検索拡張生成 (RAG) による学内情報検索
3. 学園専用統合生成AI環境 (JWU-GPT Suite)
 - 3-1. バイブコーディング
 - 3-2. バイブコーディングの検証
4. 生成AIサービス学生開発WG
 - 4-1. ローコード開発
 - 4-2. 生成AIサービス学生開発WGの概要
 - 4-3. 生成AIサービス学生開発WGの取組
 - 4-4. 学生アンケート
5. 学生主体DX・AXプロジェクト (JWU-DXあとリエ)
 - 5-1. JWU-DXあとリエの取組概要
 - 5-2. JWU-DXあとリエの特徴
 - 5-3. JWU-DXあとリエの取組実績
6. ローカルLLMの取組

日本女子大学



2. 学園専用生成AI環境 (JWU-GPT)



【目的】全教職員の生成AI利活用環境を整備する（2023年度）

【課題①】利用コスト

全教職員（約1,400名）に生成AIサービスを利用させると非常に高額
⇒ 約5,400万円/年（=240ドル/人・年※×約1,400人×約150円/ドル）

※OpenAI社 ChatGPT Plusの場合（2024年度8時点）

【課題②】ユーザー管理

検討当初、高精度な生成AIサービスの利用は、個人契約のみ
システム管理者側でのユーザーの権限や機能制限が不可能

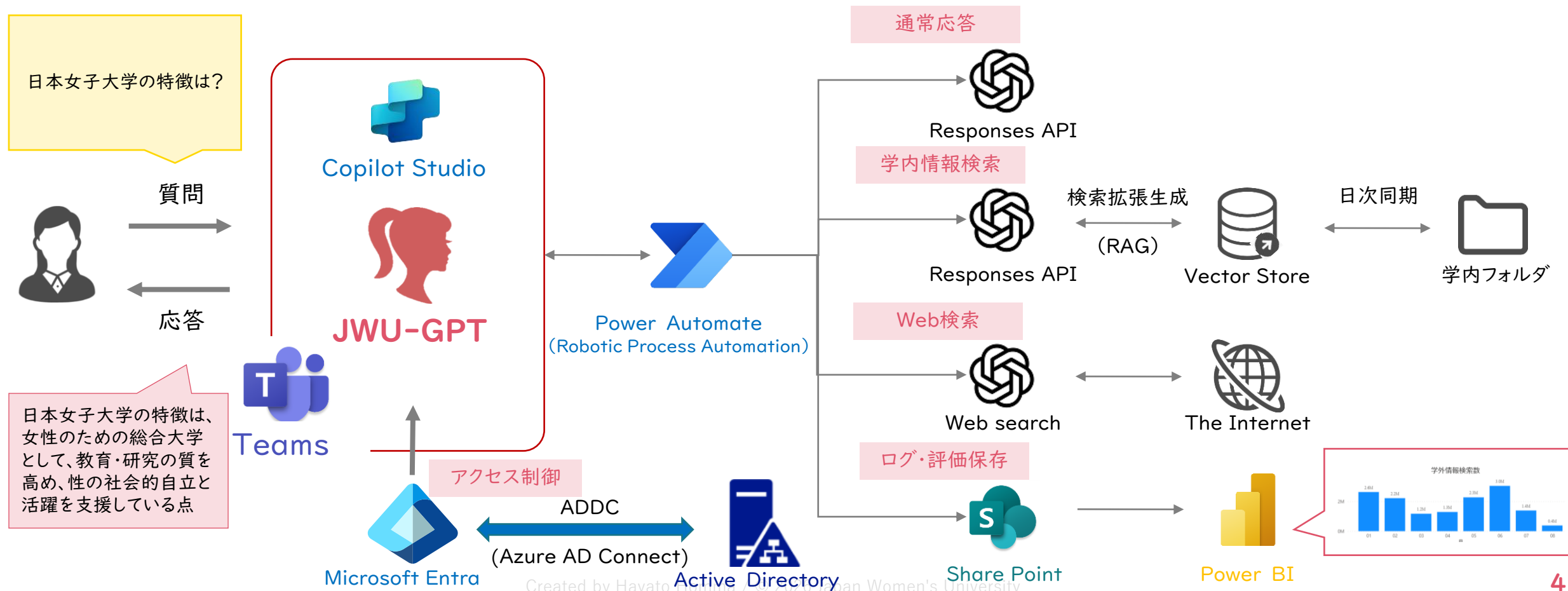
【課題③】意図しない情報流出

入力した情報がサービス提供事業者の
LLM（Large Language Models、大規模言語モデル）の学習に利用されるリスク

生成AI対話プラットフォーム（JWU-GPT）を内製で開発

2-2. 学園専用生成AI環境の概要

- 日本女子大学専用の生成AI対話プラットフォーム (JWU-GPT) を **2023年度より全教職員に提供**
- すでに全教職員に提供されていた **TeamsをUI** に、**OpenAI社のChatGPTのAPI経由** で問合せ
- 生成AIの技術動向に応じて、①通常問合せ ②**学内情報検索** ③Web検索機能を追加





検索 (Ctrl+E)



日本女子大学



本集



お知らせ 最近行われた更新の中で、以前に非表示にした可能性のある一部のチームが再び表示されるようになっています。表示されないようにする場合、[チーム] ビューから簡単に非表示にすることができます。



アクティビティ



チャット



チーム



課題



カレンダー



通話



JWU-GPT p...



アプリ



JWU-GPT powered by GPT-4o

はい

いいえ

11:32

いいえ



JWU-GPT powered by GPT-5 & RAG 11:32



ありがとうございました！

再度、私と会話したい場合は、ボタンを押してください。
ボタンが押せない場合は、次のように入力してください。

- (1) 会話を開始：**gpt**を入力
- (2) 学内情報を検索：**in**を入力
- (3) Web情報を検索：**web**を入力

各機能については[こちら](#)をご確認ください。

会話を開始

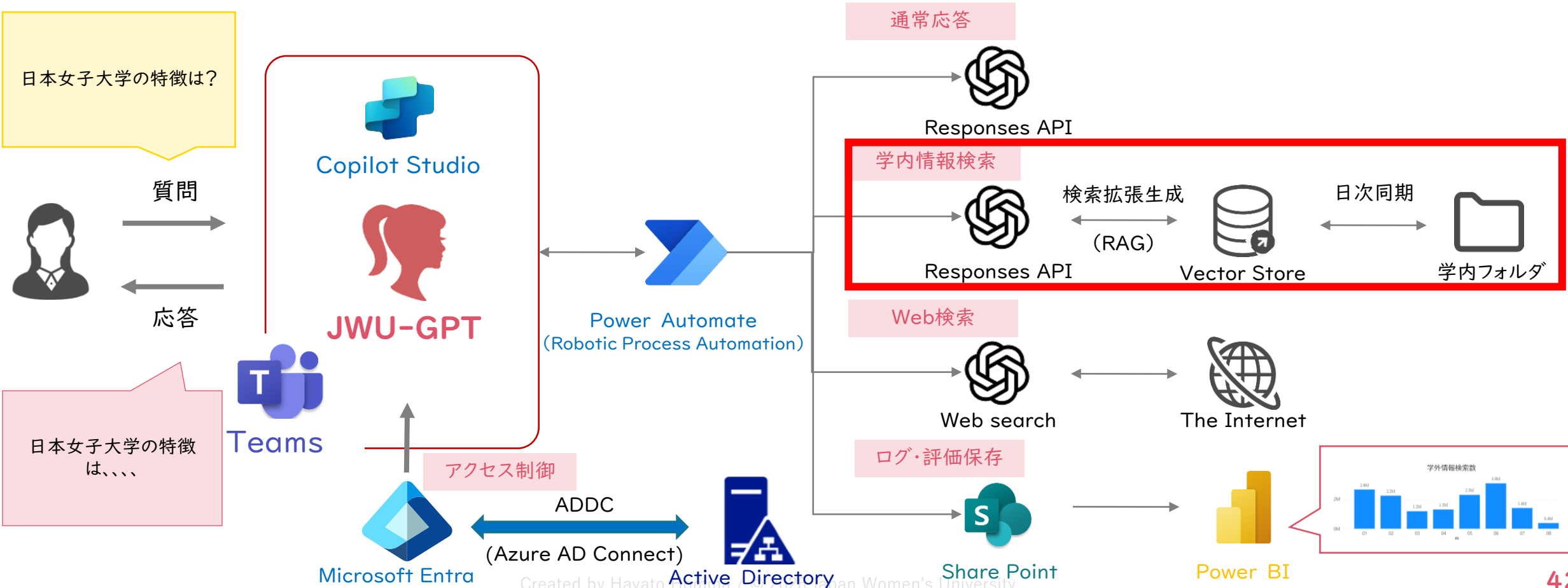
学内情報を検索

Web情報を検索

メッセージを入力



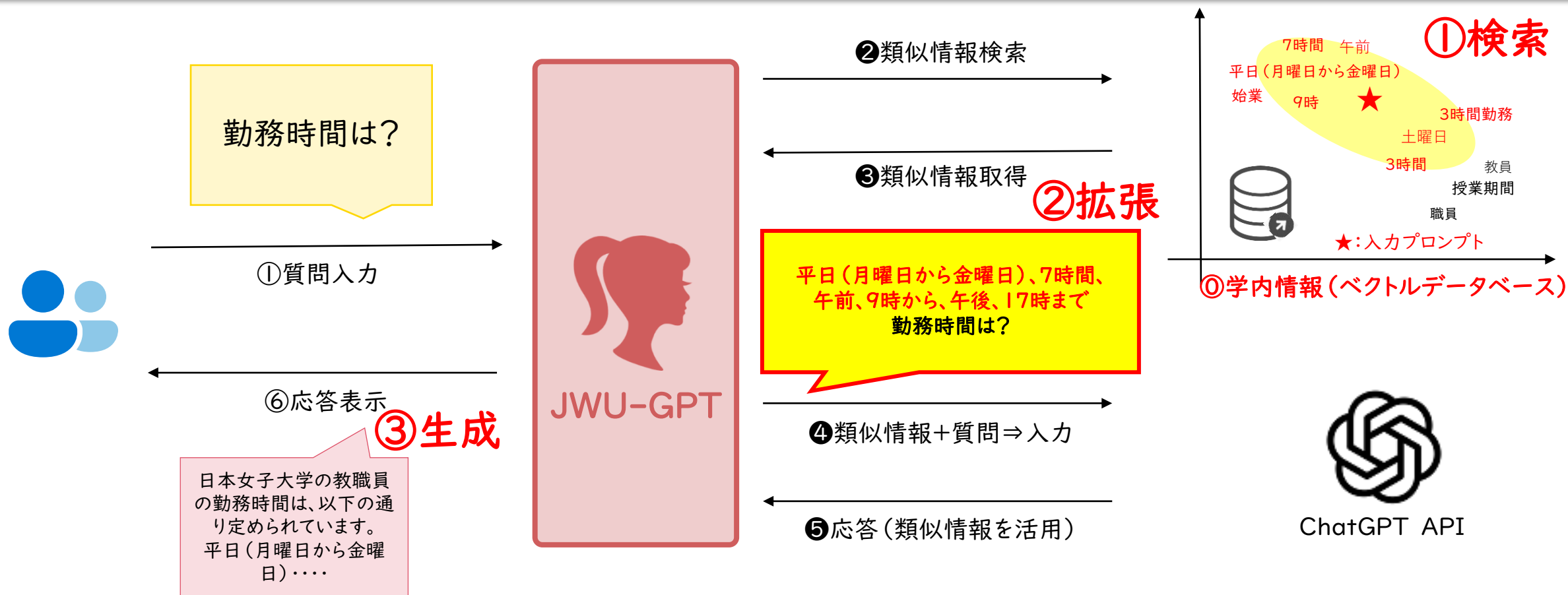
- 学内情報検索機能に伴う、検証と改善を経て全学へリリースした内容をご説明



2-3. 検索拡張生成 (RAG) による学内情報検索

- 検索拡張生成 (RAG) では、以下の仕組みにより、学内情報に関して応答が可能になる
 - 事前に学内情報をベクトルデータベース※に格納
 - 入力された質問に対し、ベクトルデータベースから回答になりうる類似情報を**検索【①】**
 - 質問に類似情報 (回答になりうる情報) を追加 (**拡張【②】**) を LLM に入力
 - 類似情報を活用し、学内情報に関して回答を**生成【③】**

※テキストを数値ベクトルで保存するデータベース、単語や文章間の類似度を距離で計算可能となる



2-3.検索拡張生成 (RAG) による学内情報検索

- 学生・教職員からの問合せの一次窓口を想定し、20組織の参画を得て機能評価を行った
- 参画組織は、想定質問を作成し、その質問に対する生成AIの応答に定量評価を実施、その結果に応じて、設定を見直し、再度、定量評価を行い目標値に達するまで繰り返す

参画組織				番項	順手	容内理処	対応組織
法人企画部	学園企画課	教学企画課	広報課	①	想定質問例の作成	学内利用を想定した質問例を作成	組織画参
総務課	人事課	経理課	施設課	②	データの格納	想定質問に回答するための参考情報を共有フォルダに格納	組織画参
入試課	研究支援課	学修支援課	学生支援課	③	応答の自動生成	全想想定質問に対して応答を生成	ムテスシ課
キャリア支援課	国際交流課	保健管理センター	通信教育課	④	定量評価の入力	応答内容を5段階で評価 ◎:適切な回答 ○:参考となる回答 △:誤りを含む回答 ▲:参考にならない・誤った回答 ×:問題を含む回答	組織画参
生涯学習課	図書館課	成瀬記念館事務室	検収室	⑤	設定の見直し	評価結果に基づき設定を調整 ・プロンプト ・各種パラメーター ・格納データ	組織画参 ムテスシ課
				⑥	再検証	③、④を再度実施	組織画参 ムテスシ課

計20組織

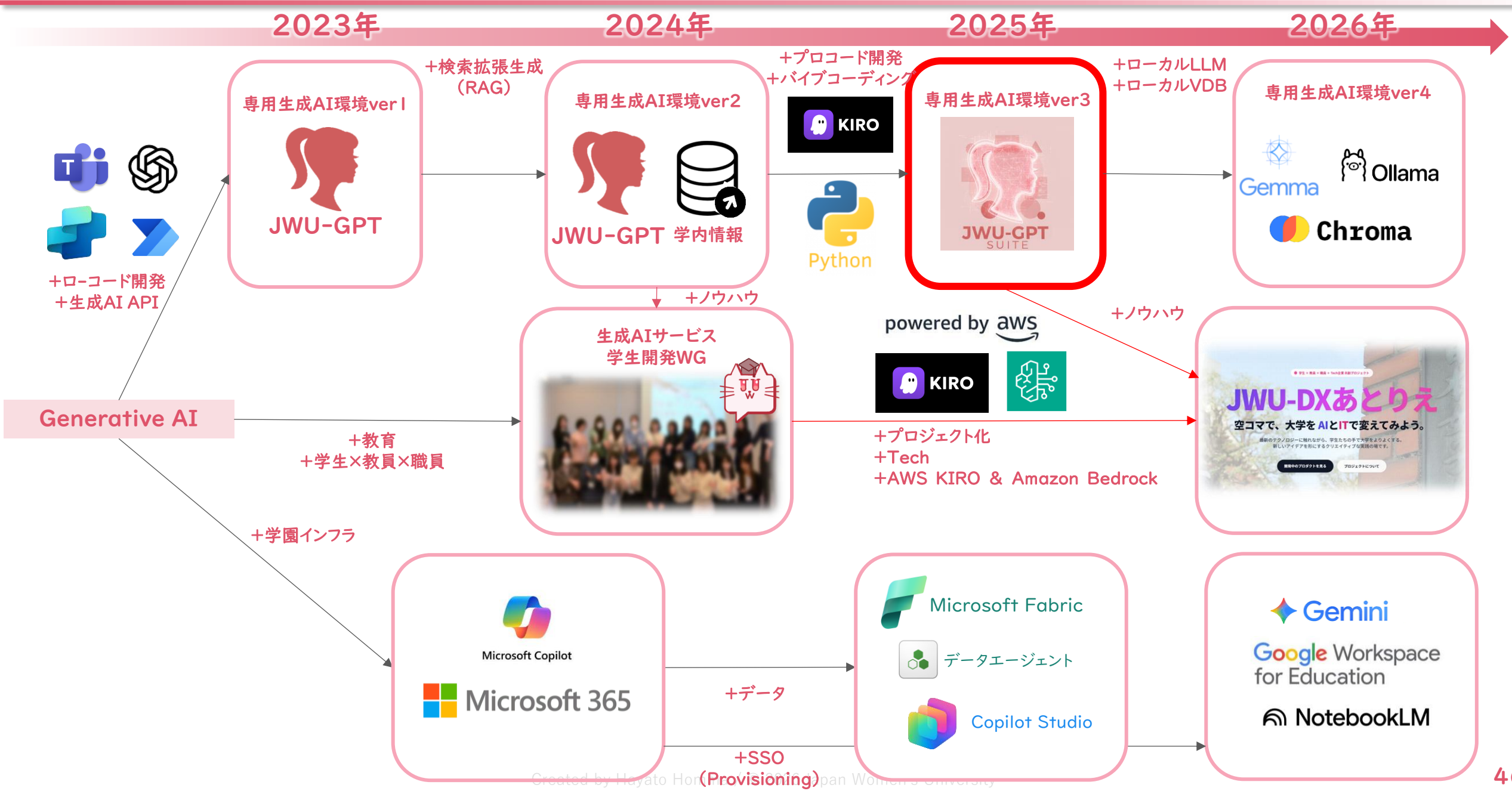
2-3.検索拡張生成 (RAG) による学内情報検索

- 学内情報の検索機能のリリースの目標値を「適切な回答 (◎)」と「参考となる回答 (○)」が全体の80%以上になることと定めた。
- 評価1回目の結果から設定の見直しを行い、評価2回目は評価値が90.3%となり、全教職員への展開を判断した。

	想定質問数 (未評価除く)	適切な回答	参考となる 回答	誤りを含む 回答	参考にならない ・誤った 回答	問題のある 回答
		◎	○	△	▲	×
評価1回目	151	77	39	25	6	4
		51.0%	25.8%	16.6%	4.0%	2.6%
		76.8%		23.2%		
評価2回目	165	95	54	12	2	2
		57.6%	32.7%	7.3%	1.2%	1.2%
		90.3%		9.7%		

見直し項目	詳細
プロンプト調整 (プロンプトエンジニアリング)	プロンプトに「日本女子大学の学内情報を用いて正確性を重視し答えて下さい。」と追加
temperature調整	1 → 0.5 に変更し、出力の安定性と正確性を重視
回答元データ差し替え	不正確または不足していた情報を更新

3. 学園専用統合生成AI環境 (JWU-GPT Suite)



- バイブコーディング (Vibe Coding) とは、AIコーディングにおける比較的新しい概念、AIと対話しながら、「雰囲気・意図 (Vibe)」でシステム開発を進めるプログラミング手法
- 凄腕エンジニア (AI) に口頭で指示して、フィードバックをして完成させるイメージ

		AIコーディング	バイブコーディング
人	役割	エンジニア (実務者)	ディレクター (意思決定者)
	作業	コードの読み書き ロジック構築	雰囲気・意図 (Vibe) の言語化
AI	役割	プログラマー	エンジニア
	作業	コードの生成・補完・バグ修正	全体設計・UI構築・フルスタック実装
イメージ		優秀なプログラマー (AI) と ペアプログラミングでコーディング	凄腕エンジニア (AI) に口頭で指示して、 フィードバックをして完成させる

3-1. バイブコーディング (Vibe Coding)

- ローコード開発は「簡易さ」を実現したが、代償として「自由度」が低かった
- これまでは「自由度を高めるには、高いスキルが必要」というのが常識
- バイブコーディングは「高自由度なのに低スキル」を実現し、その常識を覆した



3-1. バイブコーディング (Vibe Coding)

- 各社から、バイブコーディングツールが提供されている



Google社
Antigravity
(アンチグラビティ)



AWS社
KIRO
(キロ)



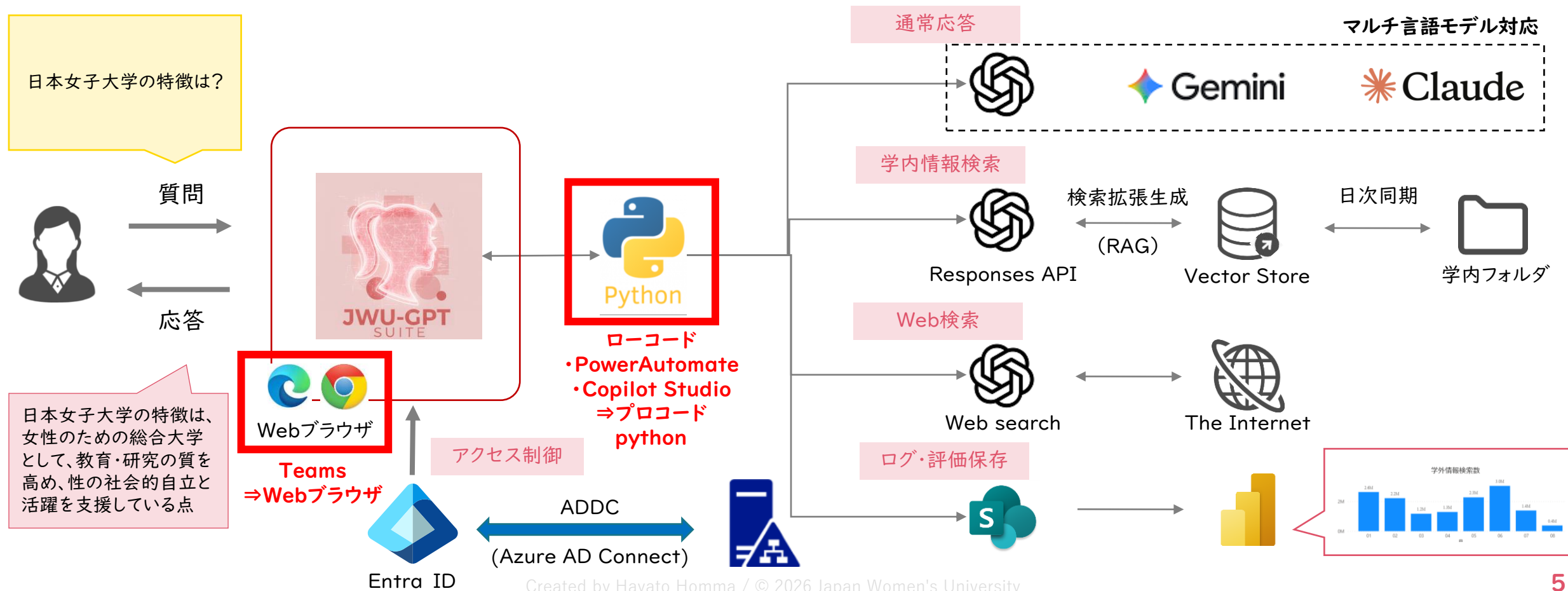
Microsoft社
GitHub Copilot
Workspace
(ギットハブ コパイロット
ワークスペース)



Anthropic社
Claude Code
(クロードコード)

3-2. バイブコーディングの検証

- Teamsから利用する本学専用の生成AIサービス (JWU-GPT) の後継として、Webブラウザ経由で利用する本学専用の生成AI統合サービス (JWU-GPT SUITE) を構築できるか検証
- ローコード (Power Automate/Copilot Studio) から プロコード (Python) での開発を試みる





サインイン

[アカウントにアクセスできない場合](#)

次へ

多要素認証(MFA)導入のお知らせ

2025年7月24日(木)より、リスクの高いサインイン時に多要素認証(MFA)を必須とします。
事前に以下リンク先の手順に従って設定をお願いいたします。

[多要素認証\(MFA\)設定手順](#)

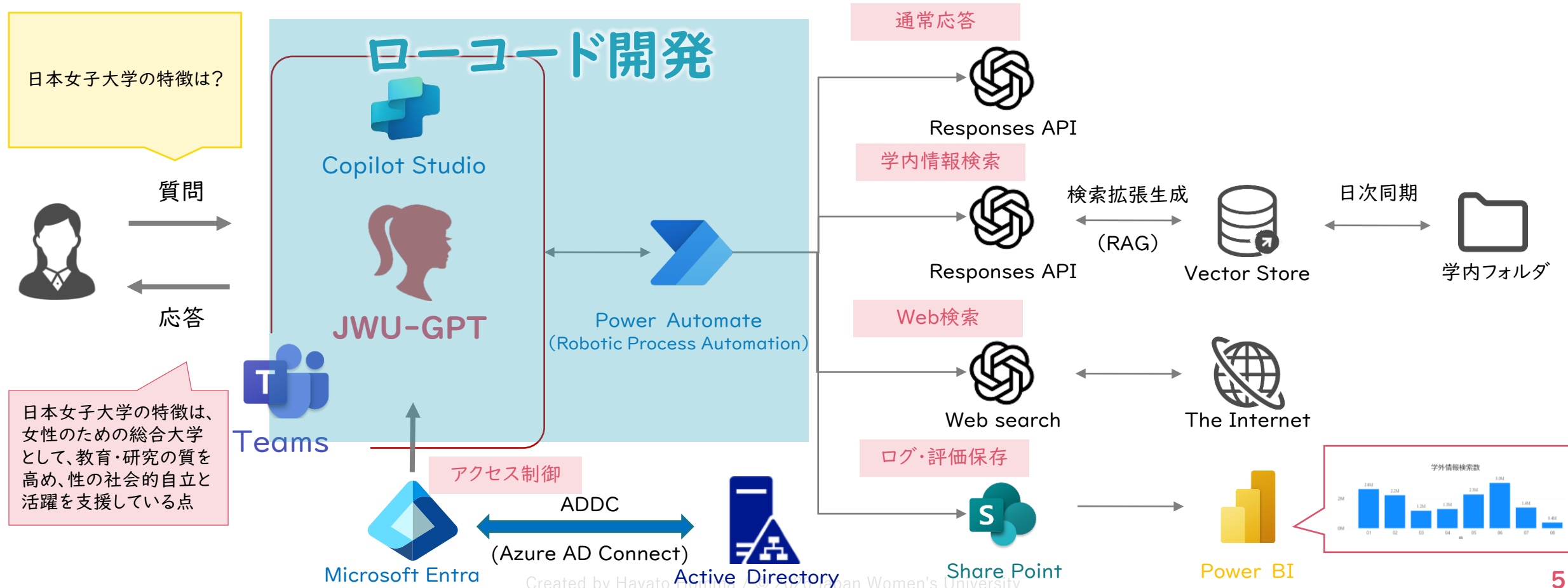
 サインイン オプション

4.生成AIサービス学生開発WG



4-1.ローコード開発

- 日本女子大学専用の生成AI対話プラットフォーム (JWU-GPT) を **2023年度より全教職員に提供**
- すでに全教職員に提供されていた **TeamsをUIに、OpenAI社のChatGPTのAPI経由** で問合せ
- 生成AIの技術動向に応じて、①通常問合せ ②**学内情報検索** ③Web検索機能を追加



4-2. 生成AIサービス学生開発WGの概要

- 2024年12月、日本女子大学 理学部 数物情報科学科にて参加者募集を行い、学科所属の合計24名が参画
- 学生向けの検索拡張生成(RAG)を活用した生成AI問い合わせサービスのローコード開発をテーマに取り組んだ



生成AIサービス学生開発ワーキングのメンバー

【目的①】

学生向けに**生成AI問合せサービス**を提供し、学園サービスレベルを向上を図る

【目的②】

先端技術を活用したサービス企画・開発・リリースを体験し、今後の学業や研究や就職等に向けた興味関心を養う

【目的③】

学生の視点を活かした、大学のデジタル改革(DX)を支援する体制を検証する

4-3. 生成AIサービス学生開発WGの取組

- 対面ワーキングでは、生成AI問い合わせサービスに必要な技術をハンズオンで学び、サービスのリリースに向けた企画をグループワークで実施
- 構築ワーキングでは、3チームに分かれて、実際のサービスを構築

実施日	実施内容
2024年12月19日	キックオフ
2025年 2月19日	対面ワーキング ・ハンズオン ・グループワーク
2025年 3月14日	構築ワーキング ・Copilotチーム ・APIチーム ・Logチーム

対面ワーキング	
オープニング（対面ワーキングについて）	
ハンズオン	1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！
	2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！
	3. 検索拡張生成（RAG）を活用した生成AI問い合わせサービスを体験しよう！
グループワーク	4. 企画書作成作成
	5. グループ内議論、グループ案策定
	6. 各グループ企画プレゼン
クロージング（振り返り・今後の予定）	

- 生成AI型問合せサービスは、Microsoft社とOpenAI社のサービスを利用し構築する
- ハンズオンでは、ユーザーに近い側から手を動かして学ぶカリキュラムとした

	ユーザーインターフェース	問合せエージェント	自動化ツール	生成AI 言語モデル	ベクトルデータベース
提供企業					
ツール	Teams 	Copilot Studio  ※Copilot:副操縦士	Power Automate 	GPT-5-mini (API) 大規模言語モデル 	Response API ベクトルストア 
機能	質問入力	質問を受取 応答を表示	質問を生成AIに渡す 応答をCopilotに渡す	応答を生成	学内情報を保存・検索
ハンズオン	1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！			2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！	
	3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！				



日本女子大学

1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！

ユーザーインターフェース	問合せエージェント	自動化ツール	生成AI 言語モデル	ベクトルデータベース
提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 OpenAI	提供企業 OpenAI
ツール Teams	ツール Copilot Studio	ツール Power Automate	ツール GPT-4o-mini (API) 大規模言語モデル GPT-4	ツール Assistants API ベクトルストア
機能 質問入力	機能 質問を受取 応答を表示	機能 質問を生成AIに渡す 応答をCopilotに渡す	機能 応答を生成	機能 学内情報を保存・検索
ハンズオン 1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！

日本女子大学

シナリオ型チャットボットの基本知識①

- シナリオ型チャットボットは、表示した選択肢に沿って問い合わせを選択、回答を表示する仕組み
- 事前に用意されたQ&Aシナリオに基づいて、回答を表示する。
- システム管理者はこのシナリオを事前に構築、更新があれば都度シナリオを書き換える必要。

シナリオ型チャットボット

選択肢1

- 学内Wi-Fiについて
- 学生ポータルについて
- ソフトウェアについて
- アカウントについて

選択肢2

- Officeについて
- Adobeについて
- ファイル転送ソフトについて
- セキュリティソフトについて

ファイル転送ソフト (WinSCP) は、コンピュータ演習室1-10で利用できます。

メディアセンターWebサイト

日本女子大学

[ハンズオン] Microsoft Copilot Studio for Teamsの設定

①Microsoft 365にログイン

②メニュー

- > Teamsをクリック
- ※Teamsが表示されていない場合は、その他のアプリからTeamsを選択

③アプリをクリック

- >Microsoft copilotで検索
- >Microsoft copilotの追加をクリック

日本女子大学

2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！

ユーザーインターフェース	問合せエージェント	自動化ツール	生成AI 言語モデル	ベクトルデータベース
提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 OpenAI	提供企業 OpenAI
ツール Teams	ツール Copilot Studio	ツール Power Automate	ツール GPT-4o-mini (API) 大規模言語モデル GPT-4	ツール Assistants API ベクトルストア
機能 質問入力	機能 質問を受取 応答を表示	機能 質問を生成AIに渡す 応答をCopilotに渡す	機能 応答を生成	機能 学内情報を保存・検索
ハンズオン 1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！

日本女子大学

生成AI型チャットボットの基本知識①

利用ユーザー

Copilot Studio for Teams

Power Automate

ChatGPT GPT-4

①トリガーフーズ入力

②質問する(ノード)

③質問入力

④PowerAutomate起動 (アクションを追加:ノード)

⑤質問の入力

⑥回答生成

⑦回答の返答

⑧回答の受け渡し

⑨回答の出力 (メッセージを表示する:ノード)

***は●●●です。

日本女子大学

生成AI型チャットボットの基本知識②

- PowerAutomate経由でChatGPTのAPIを利用する場合、公式リファレンスを参考に、PowerAutomateの形式にコマンドを書き換える必要がある。

Curlの場合 (公式リファレンス)

PowerAutomateの場合

POST URLの指定

APIキーの指定

モデルの指定

ユーザーの質問を入力

日本女子大学

3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！

ユーザーインターフェース	問合せエージェント	自動化ツール	生成AI 言語モデル	ベクトルデータベース
提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 Microsoft	提供企業 OpenAI	提供企業 OpenAI
ツール Teams	ツール Copilot Studio	ツール Power Automate	ツール GPT-4o-mini (API) 大規模言語モデル GPT-4	ツール Assistants API ベクトルストア
機能 質問入力	機能 質問を受取 応答を表示	機能 質問を生成AIに渡す 応答をCopilotに渡す	機能 応答を生成	機能 学内情報を保存・検索
ハンズオン 1. シナリオ型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 2. 生成AI型チャットボットを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！	ハンズオン 3. 検索拡張生成 (RAG) を活用した生成AI問合せサービスを体験しよう！

日本女子大学

検索拡張生成 (RAG) の基本知識①

- 検索拡張生成 (RAG: Retrieval Augmented Generation) という技術により、学内情報に特化した応答が可能
- 事前に学内情報をベクトルデータベース※に格納
- 入力された質問に対し、ベクトルデータベースから回答になりうる類似情報を検索【①】
- 質問に類似情報 (回答になりうる情報) を追加 (拡張【②】) をLLMに入力
- 類似情報を活用し、学内情報に関して回答を生成【③】

①検索

②拡張

③生成

生成AI型チャットボット

大規模言語モデル (LLM)

日本女子大学

[ハンズオン] PowerAutomateでAssistants APIに接続

<トピックの追加>

①「トピック」をクリック

>「新しいトピック」をクリック

>「最初から」をクリック

②フーズの追加に「NN3」と入力

>「+」をクリック

>「x」をクリック

※NN:ワーキングメンバーID (名札に記載)

例) 03の方は、「033」とする。

※トリガーフーズがメンバーIDで重複しないようにするため。

4-3. 生成AIサービス学生開発WGの取組（ハンズオン）

まずは、自己紹介から



スタッフから講義



真剣に聞く学生メンバー



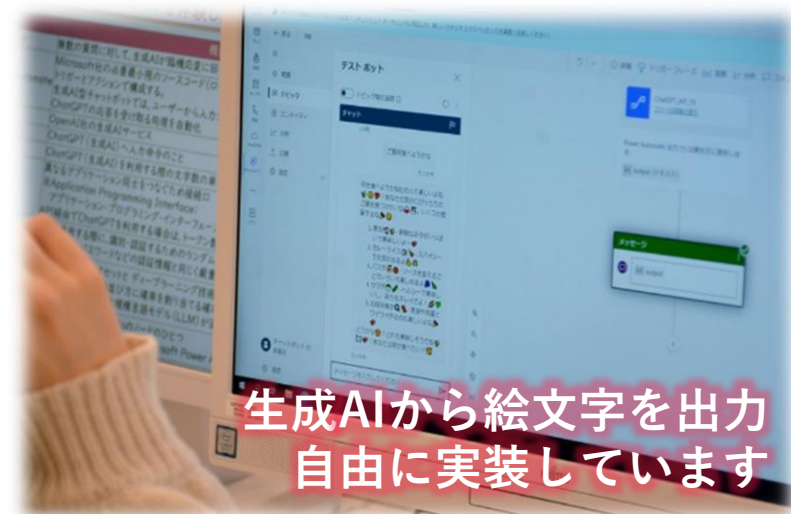
躓いたらスタッフがフォロー



ハンズオンも楽しんでいます。



生成AIから絵文字を出力
自由に実装しています



4-3.生成AIサービス学生開発WGの取組（グループワーク）



日本女子大学

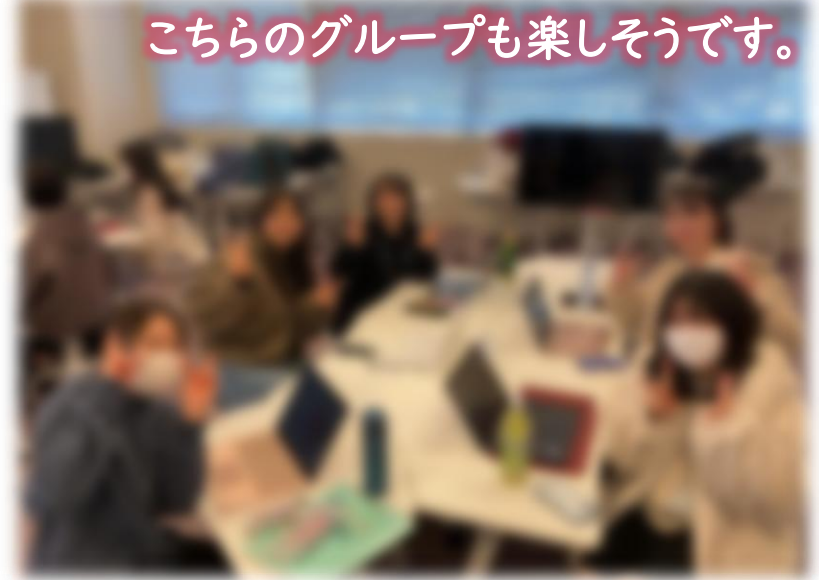
生成AIサービスについて真剣に企画



とても、和気あいあいとしています。



こちらのグループも楽しそうです。



企画をプレゼン!!

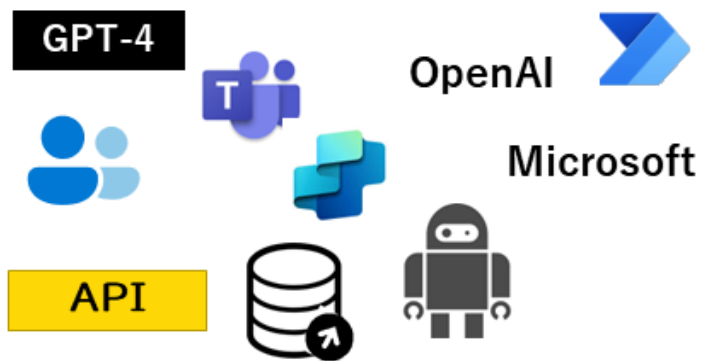


皆さんしっかりした説明です。



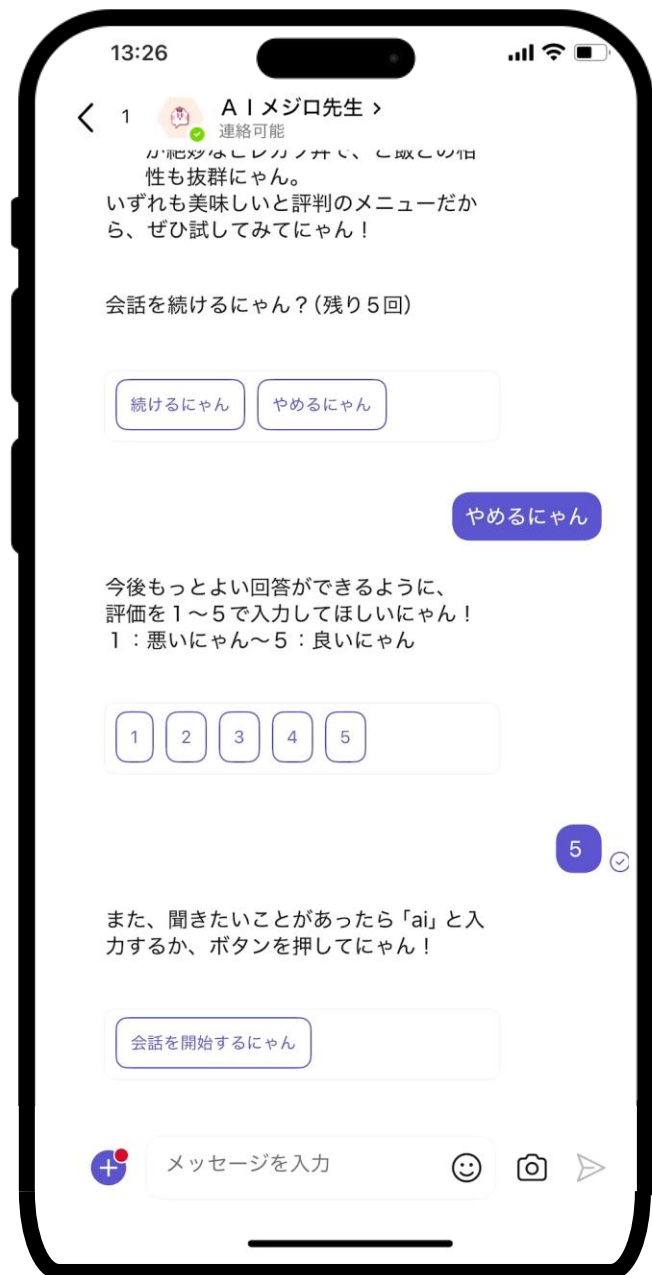
最後に、一日を総括しました。



生成AI型問合せチャットボットサービス 企画書		 日本女子大学
提案者：Bグループ		
 ロゴイメージ（手書き・写真等をアップロード）	サービス名	
	AIメジロ先生	
	トリガーフレーズ（生成AIを呼び出すためのフレーズ）	
	教えてメジロ先生	
	語尾	
	...にゃん	
 サービス構成	サービス概要	
	・ 学生が24時間・365日・どこでも大学に問い合わせができ、疑問を解消できる。 ・ 大学の膨大なHP情報やその他資料から自身で検索するのではなく、質問を投げかけることで迅速に質問の回答をもらえる ・ 学生が使い慣れたTeamsより気軽に質問が可能 ・ 以前のチャットボットよりも幅広い質問に対応できる ・ チャットの内容が保存されるため見返せる	
	今後の改善案（どのような情報の回答があるとよいか？等）	
・ 単位計算をできるようにする ・ おすすめの授業を教えてくれるようにする ・ 生協関連の情報も欲しい(学食等)		



こんなことが回答できるにゃん!!



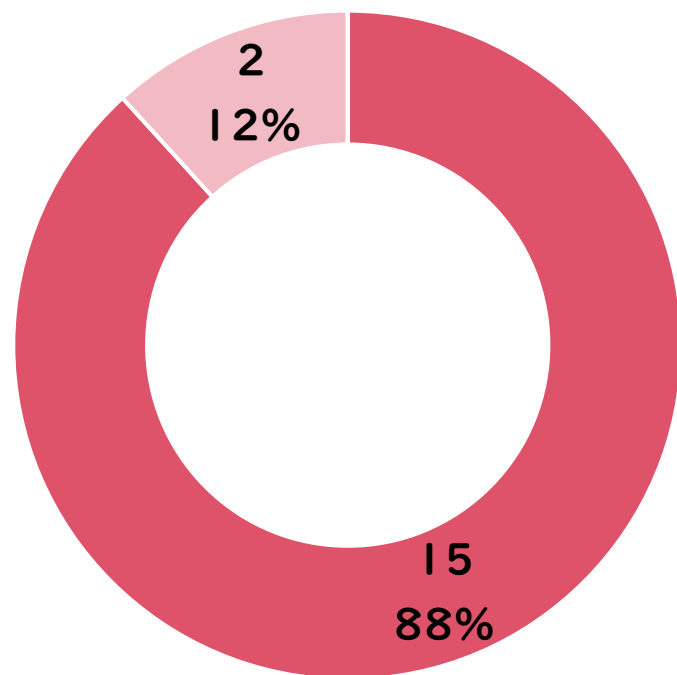
- ・学費納入に関すること
- ・学生生活全般について
(奨学金、保険、落とし物、実習期間、学生証、証明書発行)
- ・メディアセンターへの問い合わせ全般
- ・就職相談の予約・相談について
- ・OG名簿利用について
- ・図書館利用案内
- ・PROGテストに関すること
- ・学食のメニュー

等

4-4. 学生アンケート

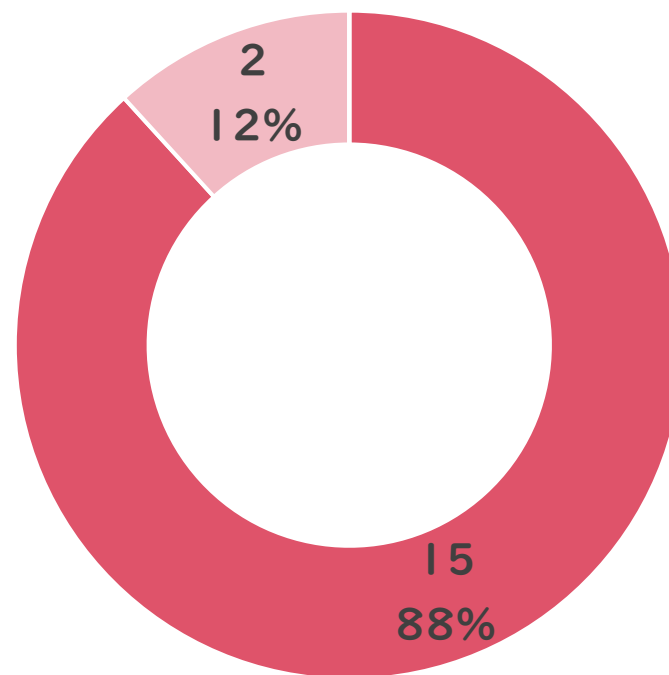
ワーキング評価

- とても良かった
- 良かった
- 普通
- 悪かった
- とても悪かった



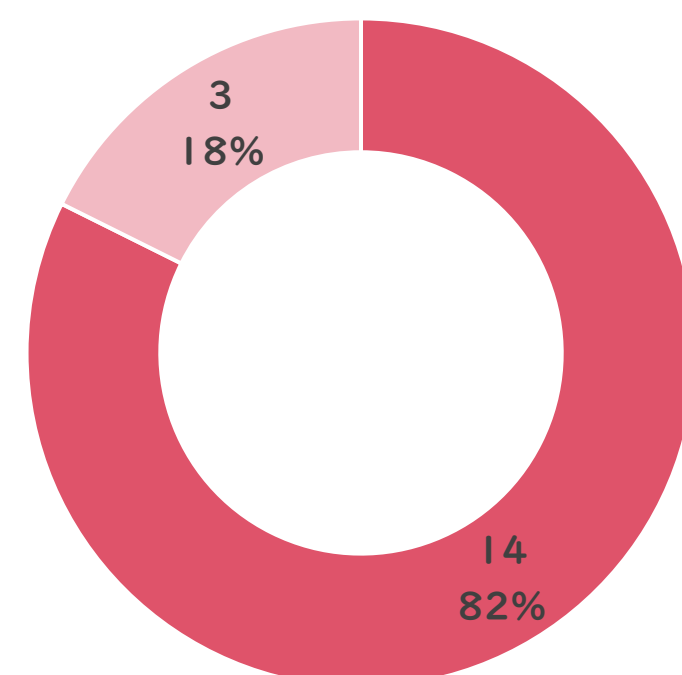
ハンズオン評価

- とても良かった
- 良かった
- 普通
- 悪かった
- とても悪かった



グループワーク評価

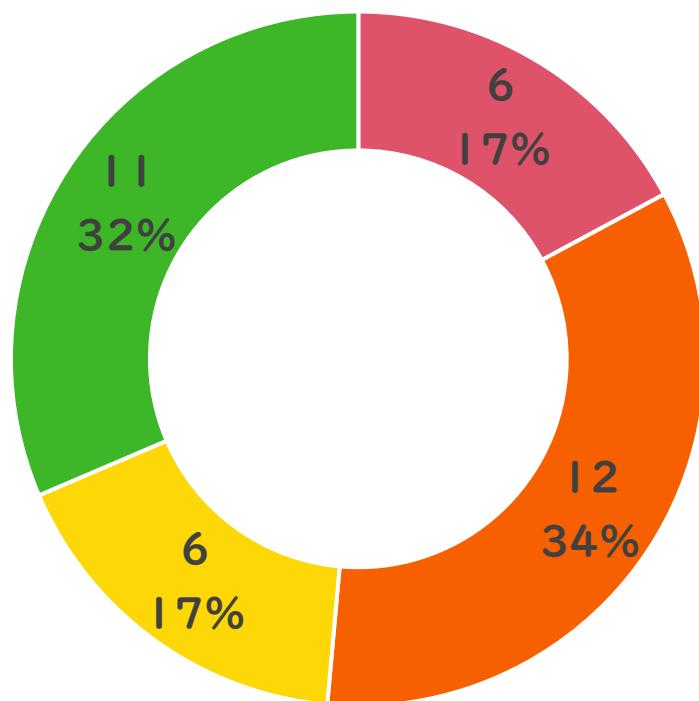
- とても良かった
- 良かった
- 普通
- 悪かった



4-4. 学生アンケート

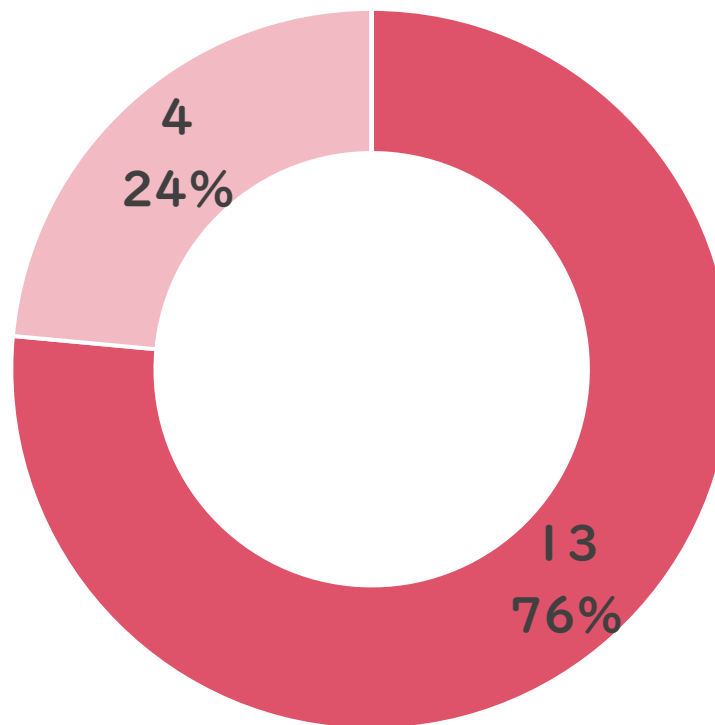
楽しかった内容

- シナリオ型チャットボットの体験
- 生成AI型チャットボットの体験
- RAGを活用した生成AI問い合わせサービスの体験
- グループワーク



今後も参加したい ですか？

- 是非参加したい
- 参加したい
- どちらともいえない
- 参加したくない
- 参加しない



とっても楽しかった！

開発の裏側を知ること、
生成AIがもっと身近になりました。
自分でももっと考えてみたいです！

興味のある分野だったので、
より楽しく学べました。

リリースされたら
積極的に使いたいです。

4-4. 学生アンケート

リアルタイムな学内情報を提供したい!!

- ・「今」の状況：図書館やPC演習室の開館時間、現在の空き教室。
- ・生活情報：キッチンカーの出店状況
- ・授業変更：休講情報や時間割変更

履修・授業のサポートをしたい!!

- ・履修相談：おすすめの授業、先輩の過去の履修例、単位計算機能。
- ・キャンパスナビ：「〇〇教室はどの建物の何階？」や、各課の窓口案内。
- ・事務手続き：欠席届などの書類がチャットから直接ダウンロードできたら便利

システム・使い勝手の改善したい!!

- ・会話のテンポ：回答スピードを速くしたい
- ・機能拡張：語尾が日替わりで変わる（キャラ付け）、サークルのSNSへのリンク。
- ・運用面：情報追加のリクエストや、フィードバック機能が欲しい。

4-4. 学生アンケート

リアルタイムな学内情報を提供したい!!

- ・「今」の状況: 図書館やPC演習室の開館時間、現在の空き教室。
- ・生活情報: キッチンカーの出店状況
- ・授業変更・休講情報や時間割変更

- ・熱量のある学生との連携の重要性
- ・柔軟な開発環境への転換の必要性

システム・使い勝手の改善したい!!

- ・会話のテンポ: 回答スピードを速くしたい
- ・機能拡張: 語尾が日替わりで変わる(キャラ付け)、サークルのSNSへのリンク。
- ・運用面: 情報追加のリクエストや、フィードバック機能が欲しい。

5.学生主体DX・AXプロジェクト (JWU-DXあとリエ)



DX JWU-DXあとりえ

コンセプト プロダクト メンバー

● 学生 × 教員 × 職員 + Tech企業 共創プロジェクト

JWU-DXあとりえ

空コマで、大学を **AI**と**IT**で変えてみよう。

最新のテクノロジーに触れながら、学生たちの手で大学をよりよくする。
新しいアイデアを形にするクリエイティブな実践の場です。

開発中のプロダクトを見る

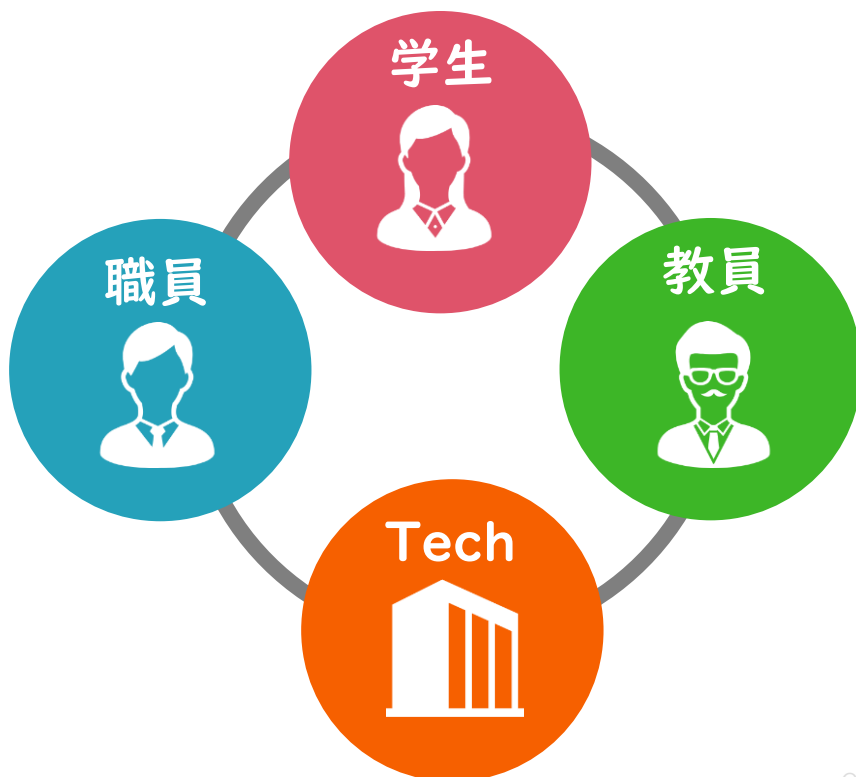
プロジェクトについて



5-1.JWU-DXあとりえの取組概要

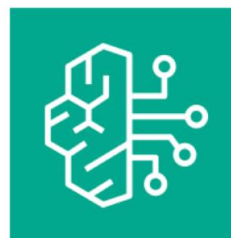
- JWU-DXあとりえは学生が学内サービスを開発、生成AI時代だからこそ実践知・経験知を重視
 - ・特徴①: 学生×教員×職員+AWS Japan様との協働体制
 - ・特徴②: AWS KIRO (次世代AI統合開発環境)、Bedrock(生成AIモデル基盤)等を利用
 - ・特徴③: フロント・バックエンド及びサービス開発の全工程を経験
- 2026年5月中旬より学生4名 (B3:3名・B4:1名) の体制で取組を開始

人的リソースのフル活用



先進技術のフル活用

powered by aws



フルスタック開発



フロントエンド



バックエンド

要件定義

設計

構築

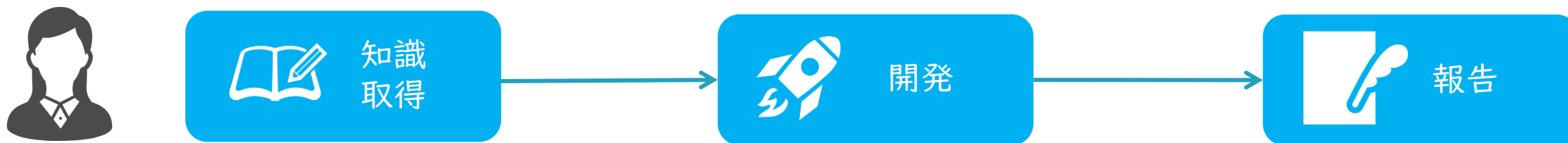
導入

運用

5-2.JWU-DXあとりえの特徴（従来の取組との比較）

- Atelier-Modelでは、社会実装としてのサービス開発および導入を最終ゴールに設定
生成AI開発環境 (KIRO) により知識のインプットを高速・多量に補完する。
- 生成AIにより補完された知識や開発過程で得られた知見を構造化・理論化し、工学的価値として論文・報告を整理
知識取得の手段として、論文や報告を位置付け

従来WG : input→output

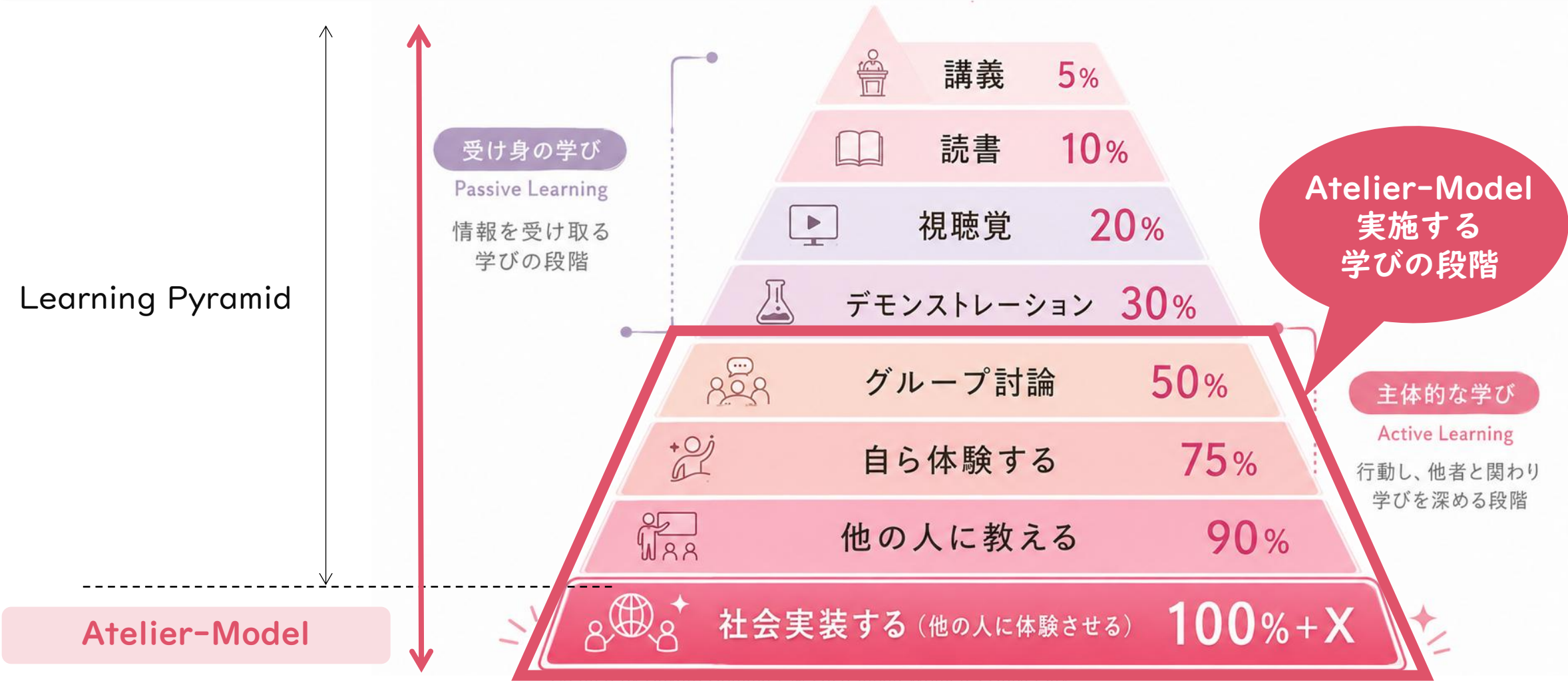


Atelier-Model : output主体



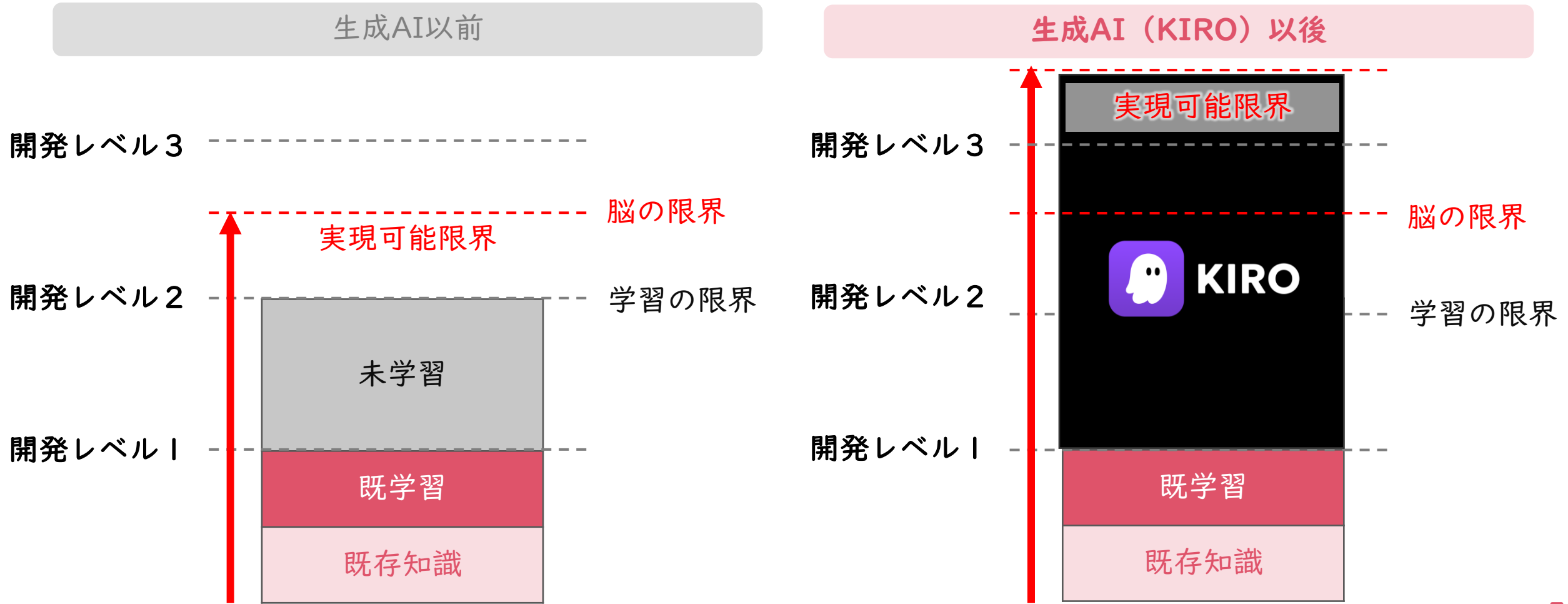
5-2.JWU-DXあとリエの特徴（アプローチ領域）

- 従来のラーニングピラミッドでは、「他の人に教える」ことが最も効果的な学習方法とされてきた。
- 生成AI時代には、知識をAIが高速に補完し、学習者は早い段階でサービス開発に取り組むことができる。
- 社会実装つまり、「他の人に体験してもらう」ことが、知識・技術の定着や理解の深化にどの程度効果を持つのかを検証したい。



5-2.JWU-DXあとリエの特徴（生成AIの捉え方）

- 生成AI (KIRO) を知識補完や開発効率化のための道具やパートナーのみではとらえていない。
- 教育において、個人の学習や認知能力（脳）の限界を拡張し、従来の到達が不可能であった領域へ導く（実現可能限界の押し上げ）
- その結果、学習者は成功体験を得ることにより、知識・技術の定着、継続的な学習意欲、自己効力感の向上を期待する





参加学生

4名

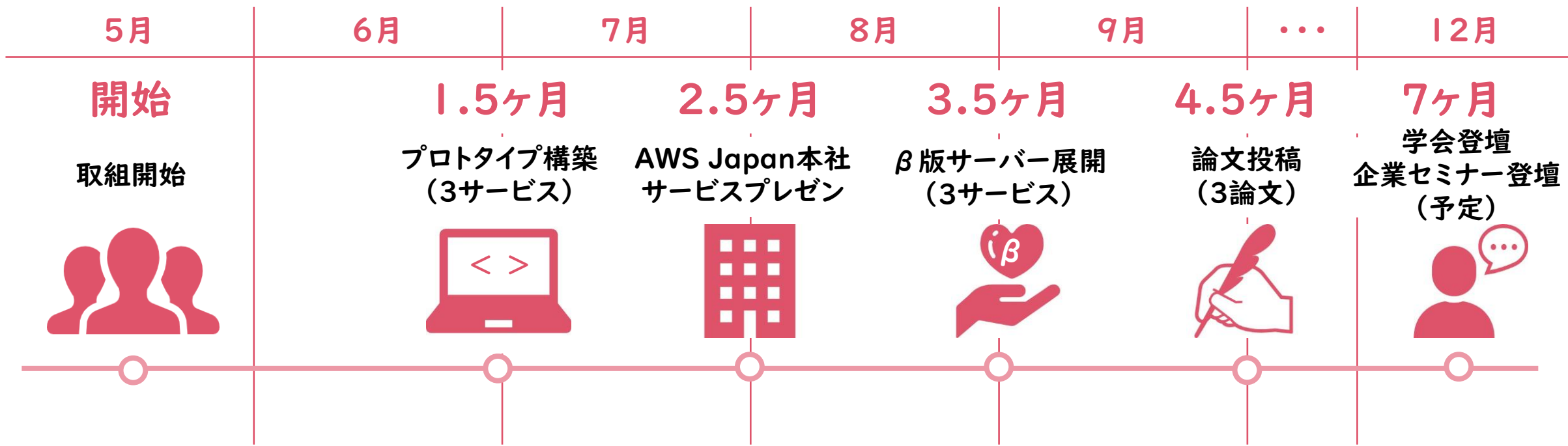
(B3:3名、B4:1名)



活動時間

週 100分 × 2回

(空コマ 授業2回分)





落とし物登録

拾得された落とし物の情報を登録します



基本情報

拾得日 *

2026/07/20

拾得時刻（おおよそ）

00

時

00

分

処分予定日 *



⚠ 貴重品

AIが自動判定します（手動で変更可）

拾得場所（建物） *

選択してください



詳細場所

例：201教室、廊下、トイレ前



落とし物写真 *

落とし物を検索

🏠 拾得場所 ▼

📅 17 日付 ▼

175件



マウス・ワイヤレス

📅 17 7/20 ・ 百年館



ペン・ユニプロパス

📅 17 7/20 ・ 百年館





メディアセンター

Switch to English

TOP

学生サービス

教職員サービス

コンピュータ演習室

教室情報

機器貸出し

各種申請

セキュリティ

お問合せ



NEWS・TOPICS

🌸 クイックメニュー

- 新入生の方へ
- よくあるご質問 Q&A集
- ご自宅のPCからコンピュータ演習室PCを利用できるサービスについて

📄 コンピュータ演習室開室情報

📄 演習室時間割 (PDF)

🔍 演習室利用状況

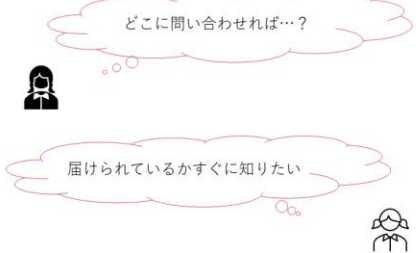
🔗 LINK



サービスの背景・目的



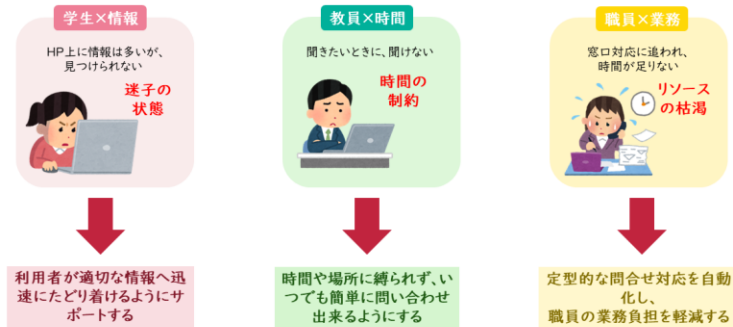
- 大学では落とし物に関する問い合わせが約1500件あるが、運用フローが最適化されていない
 - 届けられた落とし物は、箱の中に入れるだけの管理方法
 - 学生は落とし物を都度管理組織に確認に行く必要がある



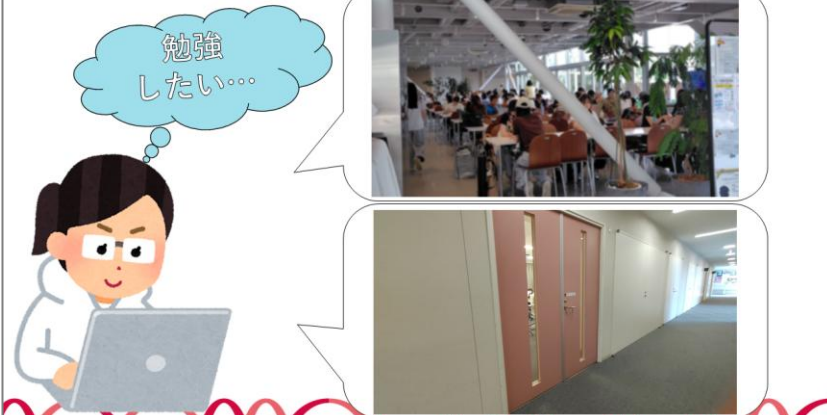
サービスの背景・目的



メディアセンターは学内ICTをサポートする組織である。
しかし、ICTの高度化・多様化により学生・教員・職員の三者は以下の現状にある。



目白花子は困っていた



サービス概要



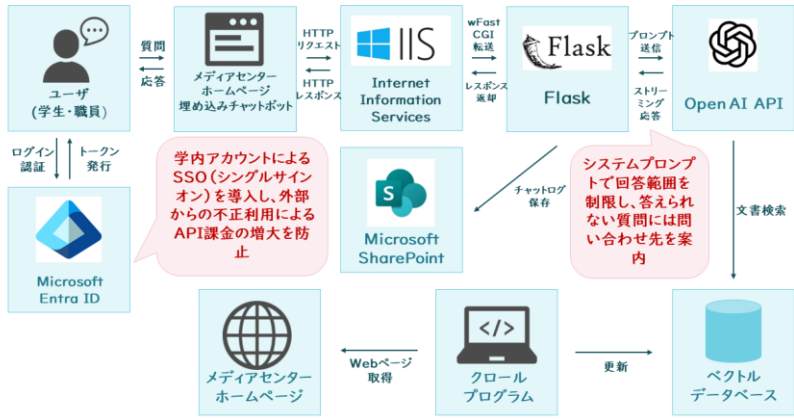
三つの画面で解決



サービス概要①



システム構成



ツールの選定理由

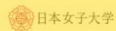


	Python	Microsoft	AWS
	Flask	Share Point	Microsoft Entra
ツール			
選定理由	最小構成のフレームワーク	既存の学内ID・パスワードの利用が可能 (新しいID/パスワードを作る必要がない)	・コストが非常に安い ・写真の判定に必要なトークン数を抑えられる ・プログラムに組み込みが容易
料金	無料	大学のMicrosoft 365 Education契約に含まれている	Novo 2 Lite(AWS): \$0.33(\$1円) Claude Haiku 4.5 (Anthropic): \$1.00(\$155円) 約3倍

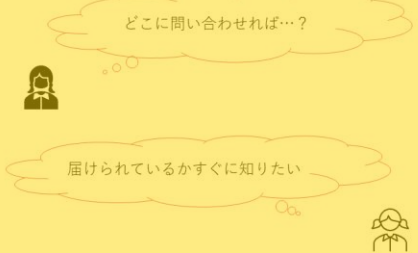
サービスの仕組み



サービスの背景・目的



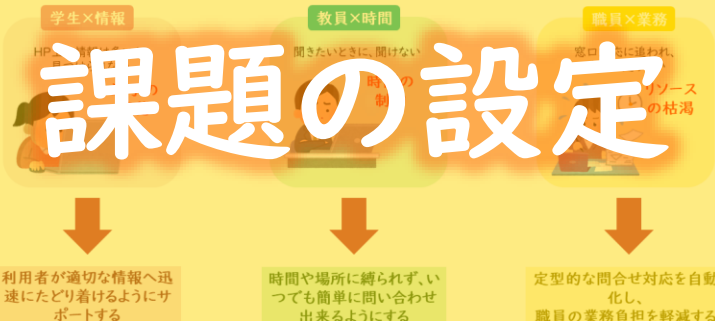
- 大学では落とし物に関する問い合わせが約1500件あるが、運用フローが最適化されていない
 - 届けられた落とし物は、箱の中に入れるだけの管理方法
 - 学生は落とし物を都度管理組織に確認に行く必要がある



サービスの背景・目的



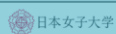
メディアセンターは学内ICTをサポートする組織である。
しかし、ICTの高度化・多様化により学生・教員・職員の三者は以下の現状にある。



目白花子は困っていた



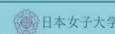
サービス概要



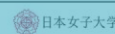
三つの画面で解決



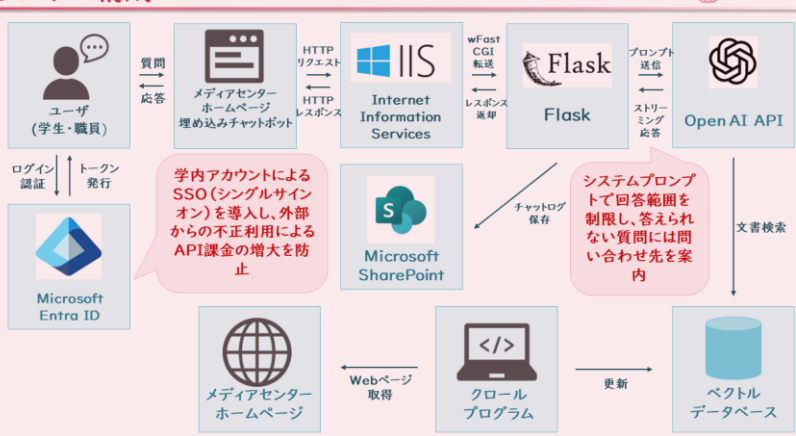
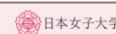
サービス概要①



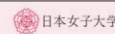
サービスの仕組み



システム構成

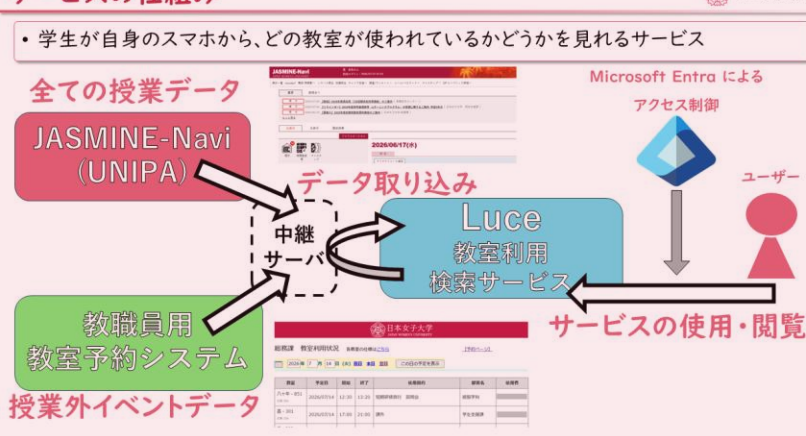
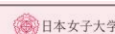


ツールの選定理由



	Python	Microsoft	AWS
	Flask	Share Point	Microsoft Entra
	Flask	Microsoft Entra	Amazon Bedrock
ツール	Flask	Share Point	Microsoft Entra
料金	無料	大学のMicrosoft 365 Education契約に含まれている	大学のMicrosoft 365 Education契約に含まれている
			Nova 2 Lite(AWS): \$0.33(51円) Claude Haiku 4.5 (Anthropic): \$1.00(155円) 約3倍

サービスの仕組み





仕事のプロセスに沿った報告



- 2

 日本女子大学

5

1

 日本女子大学

1

サービスの背景・目的 日本女子大学

- 大学では落とし物に関する問い合わせが約1500件あるが、運用フローが最適化されていない
 - 届けられた落とし物は、箱の中に入れるだけの管理方法
 - 学生は落とし物を都度管理組織に確認に行く必要がある



どこに問い合わせれば…?

届けられているかすぐに知りたい

サービスの背景・目的 日本女子大学

メディアセンターは学内ICTをサポートする組織である。
しかし、ICTの高度化・多様化により学生・教員・職員の三者は以下の現状にある。

学生×情報

HP・メールの制約

教員×時間

聞きたいときに聞けない

職員×業務

窓口業務に追われ、ICTサービスの枯渇

課題の設定

↓

利用者が適切な情報へ迅速にたどり着けるようにサポートする

↓

時間や場所に縛られず、いつでも簡単に問い合わせ出来るようにする

↓

定型的な問合せ対応を自動化し、職員の業務負担を軽減する

目白花子は困っていた――





AIにより人間の思考領域が深化

AI



学内アカウントによるSSO (シングルサインオン)を導入し、外部からの不正利用によるAPI課金の増大を防止

メディアセンターホームページ

クローलプログラム

ベクトルデータベース

解決策の実行

	Flask	Share Point	Microsoft Entra	Amazon Bedrock
ツール	Flask	Share Point	Microsoft Entra	Amazon Bedrock
料金	無料	大学のMicrosoft 365 Education契約に含まれている	大学のMicrosoft 365 Education契約に含まれている	Nova 2 Lite(AWS): \$0.33(\$1円) Claude Haiku 4.5 (Anthropic): \$1.00(\$155円) 約3倍

全ての授業データ

JASMINE-Navi (UNIPA)

データ取り込み

中継サーバ

Luce 教室利用検索サービス

Microsoft Entra による アクセス制御

ユーザー

教職員用 教室予約システム

授業外イベントデータ

サービスの使用・閲覧

取組の目的を最初に共有



熱心に開発したサービスをプレゼン



AWS Japanの社員様より質問



真剣に聞く学生達



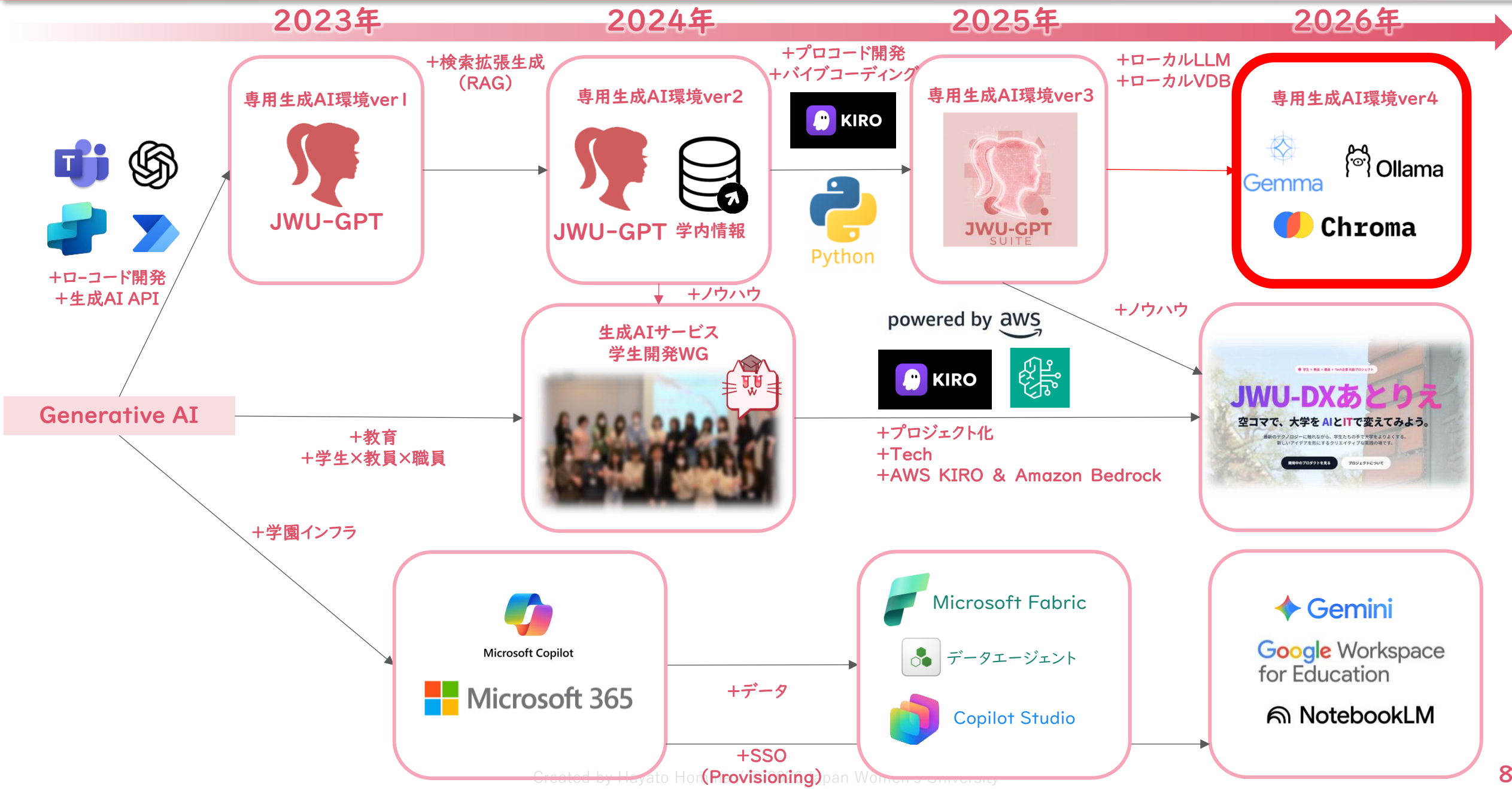
一生懸命に質問に対応



報告が終わり安心した表情に・・・
お疲れ様でした!!



6. ローカルLLMの取組



6. ローカルLLMの取組

- ローカルLLMとは、自身の端末や学内サーバー上で動作させる生成AI
- 現在は、クラウド型 生成AIサービスが主流、学内情報の送信が制限
- 一方で、ローカルLLMであれば学内システムと同等ポリシーでの運用の可能性かつ無料で利用可能なため、より幅広い業務への活用が可能と想定し、実装・検証





生成AI

人材

データ

学園DX

4.変革の目的地に至る「学園DX」

I. 各部署が創出した学園DX一例

I-1. 経理課×研究支援課によるDX

I-2. 広報課によるDX

I-3. 施設課によるDX

I-4. メディアセンターによるDX

I-5. キャリア支援課によるDX

I-6. 学修支援課によるDX

- 立替払いが以前として多く発生(約38%)、内訳として、早くて・安い・手軽な個人アマゾンで購入が主
 - 問題①: コスト = 振込手数料・法人割引機会の損失
 - 問題②: 適切な執行 = 研究者が支払いに関与しない仕組みが求められる(文科省)
 - 問題③: 教員個人の負担 = 立替金銭の負担・電子帳簿保存等の対応
- ➡ Amazonビジネス(法人版Amazon)による請求書払いへの切り替えを実現



The screenshot displays the Amazon Business (法人版Amazon) homepage. At the top, there's a navigation bar with the 'prime business' logo, a search bar, and user account information. Below this, a large banner titled '法人割引特集' (Corporate Discount Special) promotes business purchases at corporate prices. The main content area is divided into several sections:

- おすすめの割引商品** (Recommended Discounted Items): Features two monitors with a '続きを見る' (View more) link.
- ビジネスセレクト** (Business Select): Promotes products suitable for business with a '続きを見る' (View more) link.
- 再度購入** (Repurchase): Shows a desk lamp and a storage unit with a 'ショップと再注文' (Shop and reorder) link.
- 本日のタイムセール** (Today's Time Sale): Promotes a limited-time offer with a 'タイムセールへ' (To time sale) link.
- ユーザー追加** (Add User): Promotes adding users to the business account for time savings.

Below these, there are four more sections:

- ショッピングを続ける** (Continue Shopping): Shows 'Cablemate マジック...' (¥664) and 'ケーブル結束バンド...' (¥748).
- 閲覧履歴に基づくおすすめ商品** (Recommended items based on browsing history): Shows 'ASUS モニター Eye...' (¥24,280) and 'ASUS 32インチ 108...' (¥55,768).
- お客様が閲覧した商品に関連する商品** (Related items to those you viewed): Shows '【整備済み品】...' (¥19,406) and 'KTC 32インチ モニ...' (¥23,000).
- お客様におすすめのビジネスセレクト商品** (Recommended business select items for you): Shows 'EMEET C960 Webカ...' (¥2,599) and 'Anker PowerConf...' (¥6,631).

PC版: 新しいTOP画面の見やすさ

実際の画面をもとに、よく使う情報へ移動しやすい構成を説明

1 上部メニュー

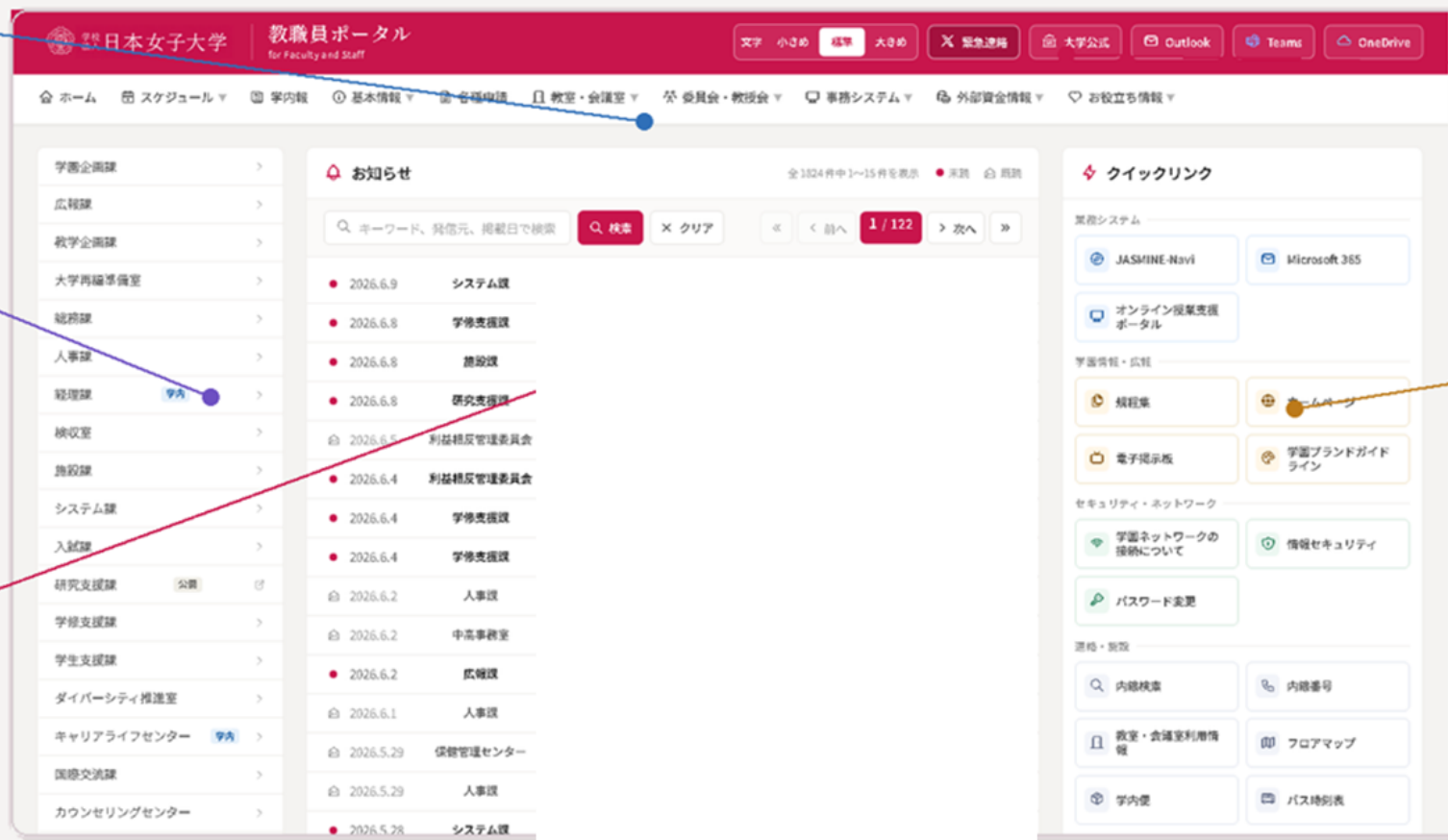
主要ページへ少ない操作で移動できます。

2 各課ページ

部署一覧から担当部署をすぐ探せます。

3 検索・未読管理

検索・未読・NEW表示で確認漏れを減らします。



4 文字サイズ

小さめ・標準・大きめを選択できます。

5 クイックリンク

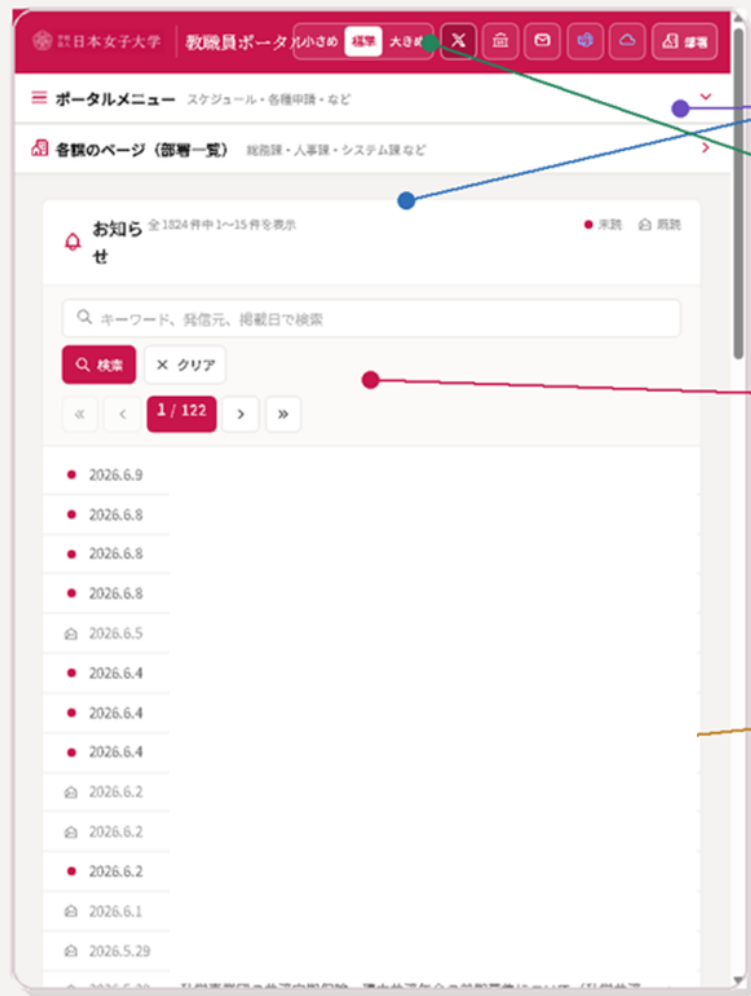
業務システムや施設情報をカテゴリ別に整理します。

運用面のメリット

SSIで共通部分をテンプレート化し、UTF-8化で今後の編集・AI支援・デザイン改善を進めやすくします。
各課は本文部分を中心に確認・更新し、共通リンクや全体デザインはシステム課でまとめて管理できます。

スマートフォン版: 小さい画面でも確認しやすく

実際のスマホ幅の画面をもとに、外出先やPC以外での閲覧性を説明



1 スマホ向けに再配置

画面幅に合わせて、情報を縦に並べ替えます。

2 メニューを折りたたみ

必要な時に開く形にし、画面を広く使います。

3 お知らせを読みやすく

検索、未読・既読、ページ移動をスマホでも操作しやすくします。

4 文字サイズも切替

小さい画面でも読みやすいよう、文字サイズを選べます。

5 PC以外でも確認しやすい

会議前や外出先でも、重要なお知らせや各課ページを確認しやすくなります。

説明のポイント

PC版と同じ情報を、スマホでは縦方向に整理して表示します。

画面の大きさが変わっても、基本操作は同じです。

I-3.施設課によるDX

 2026/06/17 09:05

更新

2026年度

2026/06/17 (水) 1限 09:00 ~ 10:40
教室: 香205 ※最新の教室情報は教室変更を確認してください。

クリッカーボタンを押すと、
授業時間中の授業と回数が自動的に選択されます。

① 授業中に困ったとき


空調・設備の依頼
→ 施設課


教室AV機器・PCなどの依頼
→ メディアセンター

クリッカー

CSVダウンロード

空調・設備の依頼

依頼する教室

教室を選択してください

-- 教室を選択してください --

依頼の種類

空調

その他

現在は冷房期間です。

☒ ※ 涼しくしてほしい (温度を下げる)

☐ ☀ 暖かくしてほしい (温度を上げる)

☐ ● 空調を止めてほしい

☐ ⚠ 空調が動いていない・異常がある

コメント (任意・最大200文字)

例: 窓側の空調だけ効いていないようです

依頼内容を確認する

教室AV機器・PCなどの依頼

メディアセンター (授業中のトラブル受付)

[← 出席カードに戻る](#)

電話で解決できそうな場合は、以下にご連絡ください。
03-5981-3740 (内線 3740)

教室

香205

[別の教室に変更する](#)

困っている内容

☒ プロジェクタ・AV機器

☐ マイク

☐ PC関連

☐ その他

来室希望

☒ 教室まで来てほしい

☐ 授業後に確認してほしい

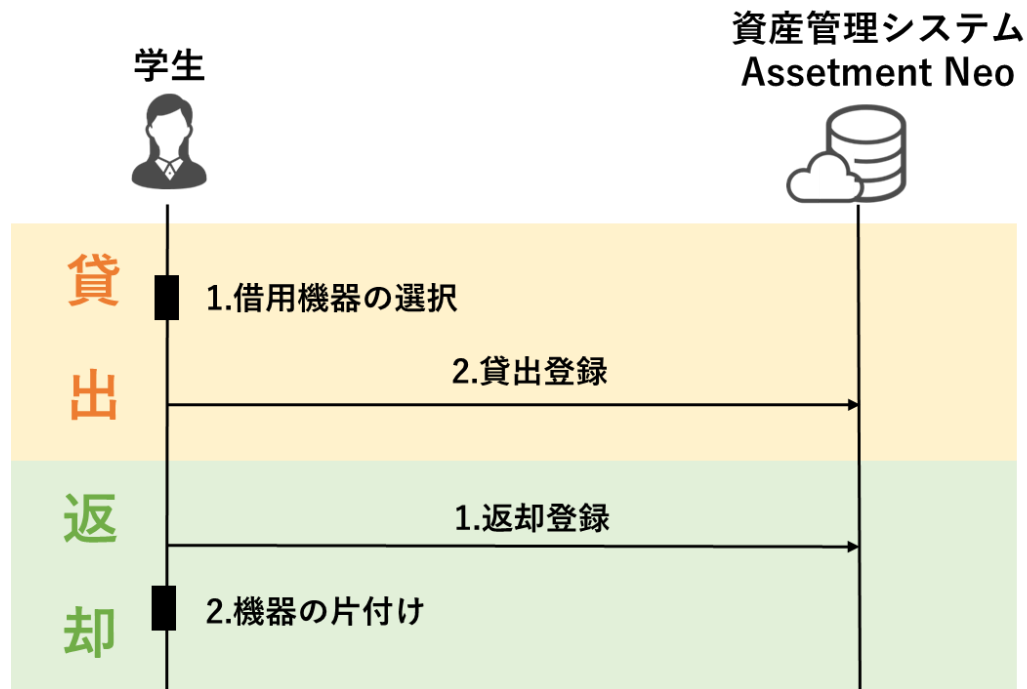
伝言があれば入力 (任意)

空欄のままでも送信できます。例: プロジェクタに映りません。

依頼内容を確認する

I-4.メディアセンターによるDX

- ・ 従来運用の課題解決のため、機器レンタルサービスを学生によるセルフ型運用に変更
- ・ セルフ型運用に際し、クラウド型資産管理システムを導入
- ・ タブレット端末に学生証バーコードと機器のQRコードの読取のみで手続きが完了



新運用の機器レンタルサービスのフロー

セルフ型機器レンタルサービス用端末



学生証バーコード



機器のQRコード



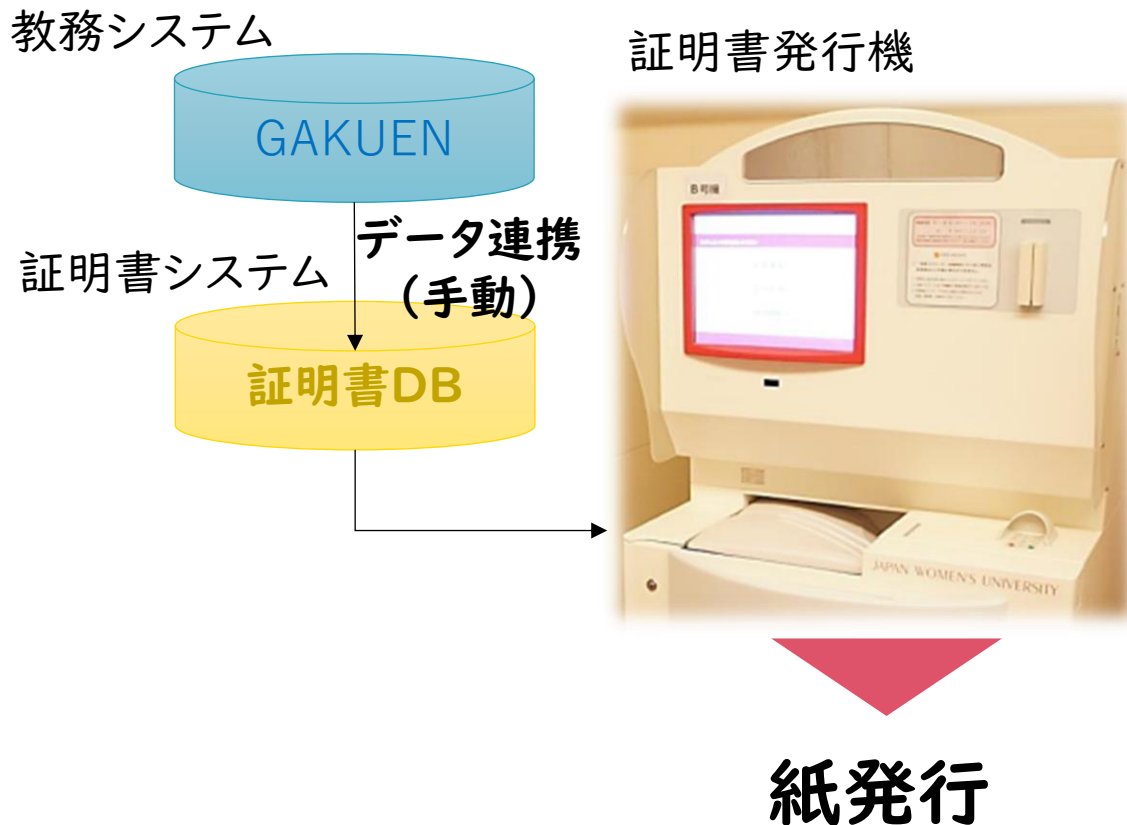
 日本女子大学
JASMINEキャリアナビ

ユーザーID	ユーザーIDを入力してください
パスワード	パスワードを入力してください
☐ 次回からユーザーID・パスワードの入力を省略（注意点を確認）	
ログインする	
>パスワードを忘れた方へ	

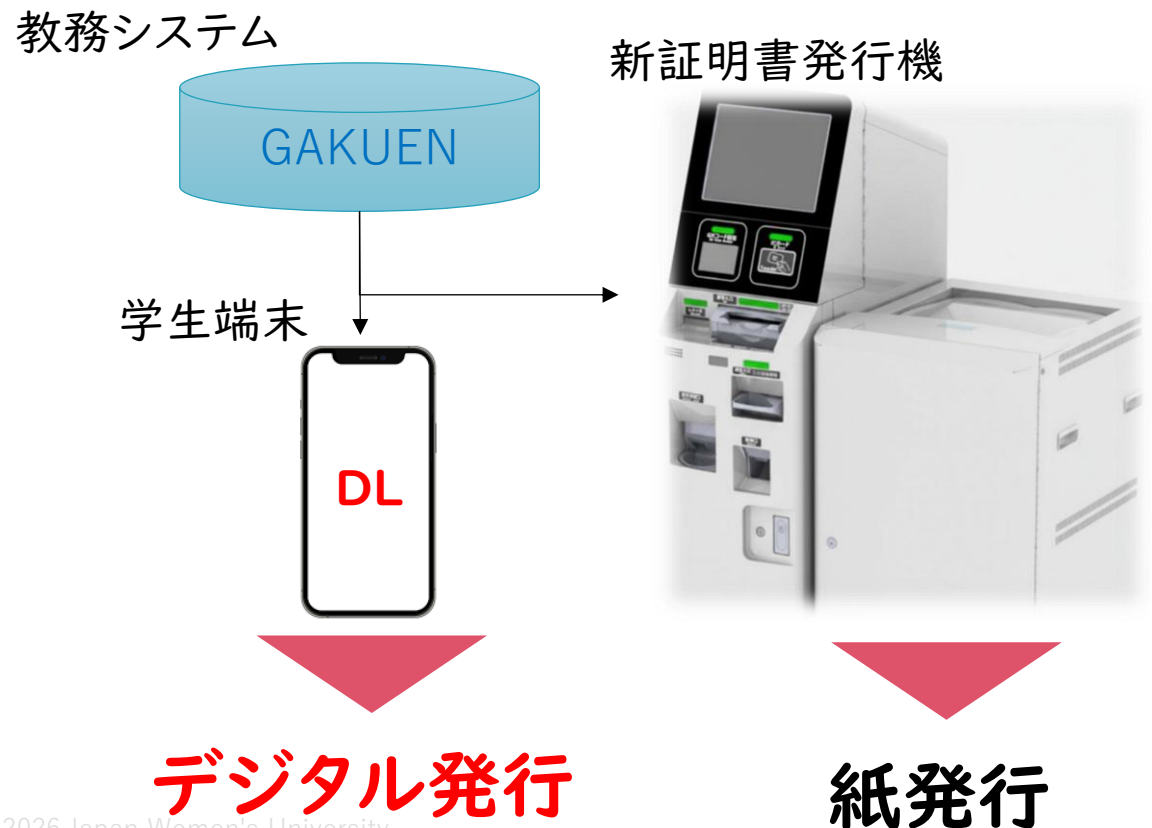
I-6.学修支援課によるDX

- 2026年度に証明書発行機を更新。併せてデジタル発行サービスを導入し、学生の利便性を向上させる。
- また、教務システムから直接、証明書発行を行うことで、運用負担も軽減を想定する。

証明書発行サービス(従来)



新証明書発行サービス



AXIES 2026 HIROSHIMA

2026.12.9_水~12.11_金



知をすくい、未来へよう
生成 AI 時代の大学 ICT

 大学 ICT 推進協議会 2026 年度年次大会
2026 年 12 月 9 日(水)~11 日(金)
広島国際会議場



<https://axies.jp/cond/axies2026/>

AXIES (大学ICT推進協議会) 年次大会

- ・2026年12月9日~11日@広島
- ・全国の大学のICTの取組に関する報告会
- ・現場レベルの大学DXの情報交換の場
- ・日本女子大学も参加し、最新情報を報告
- ・IT系企業様も多く参加





DXコア人材研修（問題解決実践業務研修）を体系化・基本研修化
持続的なスキル習得・DX/改革を実現



生涯IDとデータ分析基盤で分散データを統合
エビデンスに基づくDX/改革へ活用



生成AI環境（検索拡張生成・AIコーディング等）を整備し、DX促進
教職員のみならず、学生主導の学園DXにも着手



学園の関係者による学園DXの成果が創出され始め、
学園DX推進の持続可能な仕組みに近づいている